

平成23年6月20日

1. 出席議員

議長 牟田 勝 浩  
1 番 朝 長 勇  
3 番 上 田 雄 一  
5 番 山 口 良 広  
7 番 宮 本 栄 八  
9 番 石 橋 敏 伸  
11 番 上 野 淑 子  
13 番 山 崎 鉄 好  
16 番 小 柳 義 和  
19 番 山 口 昌 宏  
21 番 杉 原 豊 喜  
23 番 黒 岩 幸 生  
25 番 平 野 邦 夫

副議長 小 池 一 哉  
2 番 山 口 等  
4 番 山 口 裕 子  
6 番 松 尾 陽 輔  
8 番 石 丸 定  
10 番 古 川 盛 義  
12 番 吉 川 里 巳  
14 番 末 藤 正 幸  
17 番 吉 原 武 藤  
20 番 川 原 千 秋  
22 番 松 尾 初 秋  
24 番 谷 口 攝 久

2. 欠席議員

26 番 江 原 一 雄

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 筒 井 孝 一  
次 長 松 本 重 男  
議事 係 長 川久保 和 幸  
議事 係 員 江 上 新 治

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
技		監	松	尾		定
政	策	部	角			眞
つ	な	が	山	田	義	利
營	業	部	森		孝	畑
營	業	部	北	川	政	次
く	ら	し	古	賀	雅	章
こ	ど	も	馬	渡	公	子
ま	ち	づ	石	橋	幸	治
山	内	支	牟	田	泰	範
北	方	支	川	内	野	夫
会	計	管	山	口	光	則
教	育	部	浦	郷	政	紹
水	道	部	宮	下	正	博
総	務	課	松	尾	満	好
財	政	課	中	野	博	之
企	画	課	平	川		剛

---

議 事 日 程 第 4 号

6月20日（月）10時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

---

平成23年6月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
9	1 朝 長 勇	1. 災害対策について 2. 特産品開発について 3. お結び課について 4. みんなのバスについて 5. 市長の政治姿勢について
10	6 松 尾 陽 輔	1. 安心・安全、住みやすいまちづくりについて 1) 財政と地域経済の現状と課題への取り組み 2) 災害対策の現状と課題への取り組み 3) 住みやすいまちづくりへの提案事業
11	19 山 口 昌 宏	1. 新武雄病院の運営の在り方について 2. 安全、安心について 3. 道路行政について

---

開 議 10時

○議長（牟田勝浩君）

おはようございます。休会前に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は19番山口昌宏議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、通告の順序に従いまして、1番朝長議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。1番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、1番朝長勇の一般質問を始めさせていただきます。

まずは、先日の東日本大震災で亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災さ

れた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、きょうの私の一般質問は、5項目、災害対策について、特産品開発について、お結び課について、みんなのバスについて、市長の政治姿勢についての5項目を通告させていただいております。

先日3月11日、テレビ、その他のメディアで現実のものとは思えないような地震、そして津波の被害が伝えられ、本当に何と申しますか、もう現実とは思えない、これはただごとではないと皆さんが感じられたことと思います。そして、被害の状況が次第に明らかになるにつれて、自分でも何かできることはないか、いても立ってもいられない、皆さんがそういう気持ちを抱かれたんじゃないかと思います。ここ武雄市では、早速翌日から募金活動や支援物資の輸送、タウンステイ構想などの具体的な支援策が次々と打ち出されてきているのは本当に頼もしい限りでございます。その対策を打ち出される樋渡市長の判断力、決断力、そして行動力には心から敬意を表させていただきます。

また、行政ばかりではなく、市民の間でも何かしたい、何とかしたい、そういう気持ちを持った方がたくさんいらっしゃって、現地に行けなくても何とかしたいという思いを募って、先日の5月1日には、中央公園で元気よ届け！コンサートや、あとは有志の方たちが集まって、ワン・ラブ・武雄という組織が立ち上がり、本当に被災地のために何かできることをやっついていこう、そういう活動が行われております。本当に武雄はいいところだなと、つくづく感じさせていただいております。私もこの武雄に住み、生まれてきたことを本当に誇りに感じております。

そういった状況の中で、先日5月9日から15日までの1週間、仙台市若林区のほうに復旧活動の支援に行かせていただきました。実際に本当に被災地に出向いて活動ができた、そういう立場を与えていただいているということに感謝を申し上げます。

そこで、やはり最初に感じたこととしましては、被災の状況そのものはテレビ等でもう幾度となく映し出されておりましたけれども、やはり現地に行ってみると感じたのは、その範囲の広さといいますか、見渡す限りの物すごい被害の状況で、もう見るだけで途方に暮れるといいますか、これをどうやって復旧していくんだろうという非常にめまいを感じるような衝撃といいますか、を覚えたのを思い出します。そうはいつても、やはり一歩一歩復旧に向けての活動をして、一日も早い復旧を願うばかりでございます。

その作業に従事させてもらって感じたのは、市長の話等にもございますけれども、絶対的な人的支援が不足している、もう全く足りないですね。このままではいつまでかかるとやろうかと。10人で1週間行って、涙を流して感謝していただきましたけれども、私たちが帰った後、これから先どうやって乗り越えていかれるんだろうかと、本当に後ろ髪を引かれるような思いでありました。

そこで、けさの樋渡市長のブログを拝見させていただきましたところ、京都大学のほうで

週末、何か災害の支援活動等について講演をなされていていらっしゃるようです。そこで学生に対してボランティアの働きかけとかもなされているというような記事がありまして、非常にああいことだなと感じましたので、その講演における概要とか学生の反応等について、簡単な状況等を聞かせていただきたく思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この週末、京都大学で講演をしてきました。実際ですね、京大らしいですね、告知下手、何もせんでですね、したのは私のツイッターだけで、もう集まるとも10人ぐらいかなと思えばよったら、100人以上来んさったわけですね。このツイッターのすごさですよ。それと、私が驚いたのは、京大の学生だけじゃなくて、滋賀とか大阪とか、さまざまところからお越しいただいて、いろいろ言いましたよ。その中で一番京大生の気持ちをつかんだのはチーム武雄なんですね。実際議員がつるはしを持っていくとは思わんやったと。しかも、不眠不休で、私も朝長さんがあそこまでするとは思わんやっただですよ。もう本当にやったということで、政治家のイメージを変えたていう人もおったですもんね。

実際私がそこで呼びかけたのは、ブログでも書きましたけど、あんたたちはお金はなかかもしれんばってん、暇もてあましてろうもんで、学生やけんが。被災地行ってこいて、もうボランティア足りんけんですよ。そのときの反応はゼロです。しーんとなったもんね。目を合わせても、今私の目の前に山口良広議員がおんさるばってん、こがん感じですよもんね、目を合わせてくんされんとですよ。それで、もうショックやっただすもんね、ああ自分の気持ちというのは届いとらんとねて思ったわけですね。しかし、これ私の勘違いやっただすもんね。終わってから、私のところに学生のわあっと来たとですよ。そいぎ、即座に反応をせんわけですよ、今の学生さんは。自分の気持ちの中でそしゃくばして、もう必ず行きますて、自分も行って手助けになるのと同時に、その現場でしかわからんことがあるというのは、きょうの話で理解できましたと、これはうれしかったですね。ですので、私が大事かところは、これは行かれた8人の議員さんたちもぜひお願いをしたいのは、やっぱり火をつけてほしかとですよ、火を。やっぱり行つとらん人はなかなか火つけられんですもんね。行った人が火をつけて、山口昌宏さんがあその東川登小学校でしたよね、小学校1年生の子どもに火をつけるとですよ。普通やぎ、山口昌宏さんなんか見もせんですよ、そうばってんが、小学生に火をつけて、それがわあって広がるとですよもんね。その役割が今回のチーム武雄の皆さんたちにあるというふうに思っておるわけですね。ですので、私は京大に、先ほど質問で答えましたけれども、そういうことが必要、最後にしますけれども、とにかくボランティアが圧倒的に不足しています。これはユーストリームで流れていますので、ぜひこれから長期戦になります。場合によっては10年、20年かかりますけれども、思いをぜひ、ユースト

リームをごらんになっている皆さんたちも、行って思いを持ち続けて、自分ができるときにしてくんさるぎよかとですよ。何が何でも今行けじゃなくて、ですので、そういうことをこれから言い続けていく必要があるだろうというふうに思っております。ぜひ朝長議員におかれましても、御自身が経験されたことを市内とか市外、幅広いネットワークもお持ちですので、おっしゃっていただければありがたいと、このように思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

1 番朝長議員

**○1番（朝長 勇君）〔登壇〕**

ありがとうございます。

私もきょうの市長のブログを拝見させていただきまして、私も親のすねをかじらせていただいて、大学には行かせていただいたんですけども、やっぱりそのころそういう経験を積むというのは非常に有意義な経験になるんじゃないかと感じました。私も大学のころは余り何も考えとらんやったですもんね、正直言ってですね。汗水垂らして被災者の方に寄り添うというのは、被災者を助ける意味もありますけれども、その本人にとっても、人生にとっても本当に貴重な体験になるのではないかなと思います。それで、武雄にもお子様が大学に行っている保護者の方とかいらっしゃると思いますので、ぜひ親御さんの方とか子どもさんにボランティアに行くように働きかけ等をしていただけると、本当に人間が大きくなると思いますか、考え方が変わると思います。非常に貴重なことだと思います。

そして、あともう1つ、支援活動の3日目やったですかね、私たちは限られた時間やったけんですね、雨が降ろうがやりが降ろうが、かっぱ着てでも頑張るくさんという気持ちで行っておいりましたけれども、3日目雨が降り出して、そいぎかっぱ着てせんばのと思っておりましたけれども、そこで大友さんの奥さんがおっしゃった言葉が非常に印象に残ったというか、ショックを私としては受けたんですけども、「皆さん、放射能の雨が降ってくるけん、もうやめてください」、非常にショックでしたね、私それを言われたときが。こういうところでもそういう何といいますか、心配というんですかね、何キロ離れているかちょっと調べてこなかったんですけども、全く考えてなかったんですね、放射能の影響がどれくらいあるかというのを。そこで雨が降った途端に、放射能の雨やけん、やめてくださいと言われたときに、ああそういうところでも苦しんでいらっしゃるといいますか、本当に話を現地に行って聞いてみないとわからないなと感じさせていただきました。そして、膨大な復旧に向けての作業を考えた場合に、継続的な支援、本当に息の長い支援が必要だなと感じさせてもらいました。

それと、やはり武雄で災害が起きたときどうするか、武雄でどういう災害対応体制が必要なのかということも考えさせられました。それで、武雄市では災害姉妹都市構想とか原発の事故についての防災計画等、先日の山口等議員の質問の際にかなり詳しく話をいただい

りますので、ここでは補足的な質問をさせていただきたいと思いますが、これも災害支援に行って初めて思ったことなんですけれども、やはり一回行くと、また行きたいといひますか、また同じところに行きたいと思うわけですね。あの人を助けに行きたいというか、具体的に相手の顔が見えるというのは非常に大事なことだなど。息の長い支援を続けるという意味におきましても、やはり自治体同士のつながり、さらに市民レベル、個人レベルでのつながりをつくっていくということが、数年にわたる長い期間、支援を続けるためには非常に重要なことではないかと感じさせてもらいました。

それとあと、先日の質問でも修学旅行等の話が出ておりましたけれども、先ほど言いましたように、息の長い支援をしていくにはやはり今子どもたちが大人になったときもまだ支援が必要という状況も十分考えられるような状況でございます。そして、やっぱり子どもたちにとっても、被災地の苦勞等を自分の目で見ておくというのは非常にいい経験になるのではないかなと。そして、被災地の子どもたちと武雄の子どもたちが交流して、人と人のつながりをつくっていくというのも復旧支援だけでなく、その子どもたちの人生にとっても非常に有意義なことではないかなと感じております。

それで、姉妹都市構想に関連してなんですけれども、例えば、中学生等の修学旅行で仙台など被災地を研修先として選んでいくような対応ができないかと考えたんですけれども、これについてはどういうお考えをお持ちか、御答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、福島第一原発から仙台までの直線距離は94キロです。あの94キロ、まあおよそ100キロですよ。100キロの中で、雨の降ってきたときに、あれ防災無線の流れよったですもんね。今雨の降ってきたけんが屋内に入ってくださいとか、あるいは、大友よし江ちゃんが血相を変えて、もう雨の降りよるけんが、でもあるとき結構終わっとったですもんね。もう夕方4時ぐらいで、だんだん暗うなりよったときに雨のわあっと降ってきましたので、もう作業はここまでにしてくださいと。100キロ離れて、あれですよ、雨の降って放射能雨と言われるわけですね。これやっぱり行ってみらんぎんたわからんと思ったですね。

その中で考えたのは、災害姉妹都市を結ぼうと思ったきっかけが、この放射能の雨なんです。まあほかにもありますけれど、やっぱりパニックになるわけですね。ですので、そういう避難も含めてどういうふうにしようかということが一つの現場からの体験でそういうふうに思ったというのは議員と同じです。

それで、修学旅行なんです。本当は教育長と話をして、ことしからというふうに思ったわけですね。しかし、余震の問題であるとか、衛生上の問題であるとか、宿泊地の問題であるといったところに、やっぱり保護者の気持ちを考えた場合には、ことしは拙速でしょうと

いうことを教育委員会から私のほうに言われました。それはそうだと思って、ただ、教育長も理解をされていますけれども、寺社仏閣は後でよかです、寺社仏閣は。それよりか、例えば仙台、私も仙台、賛成です。仙台に行ったときに、被災地、だって仙台の市内から11キロしたら、もう町が崩壊しておるわけですね、700世帯流れてとか。そこから20分したら松島ですよ。松島は観光が成り立っておるわけですよ。ですので、全部修学旅行で被災地のある意味悲惨なところだけじゃなくて、観光として頑張っておられるところも行って、自分がこういうふうに体感するというのが私は修学旅行の本当の意味だと思いますよ。ですので、実際予算面の問題等もあります。ありますが、私はぜひ次、子どもたちに行ってほしい。これ議員がおっしゃったとおりなんです。やっぱりだれに聞いても10年、20年かかるというわけですよ。そいぎ、今12歳の子が10年たったとき22というぎんたですよ、もうまさに投票権を持って、社会の中核になる一歩手前ですもんね、一歩二歩手前ですもんね。そういうところでぜひやっぱり行ってほしいというふうに思うわけですね。その子たちが大人になったときに、自分のこととして何ができるかということをごひ考えてほしいと思いますので、修学旅行に関しては、これは教育委員会の専権ですし、私がとやかく言う——言いますが、これは絶対に実現させたいというふうに思いますね。

以上です。

#### ○議長（牟田勝浩君）

##### 1 番朝長議員

#### ○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

今回は修学旅行という項目で思いついて提案させていただきましたけれども、やっぱり今からいろんな交流の仕方があると思いますので、子どもたち、そして私たち大人がどういう交流ができるのか、そしてどういう支援を続けていけるのかというのを今から考えていかなきゃいけないなと感じております。

それで、あと放射能漏れの件についてですけれども、佐賀県も玄海原発があるということで、原発そのものについては決定を下す立場にはありませんので、まあ放射能漏れの事故が起こったらどうするか、やっぱりそういうことについてはいろんな検討をしていく必要があるんじゃないかと考えます。これについても防災計画で今から検討されるということですが、私なりにちょっといろいろ調べてみたところ、非常に気になる言葉といますか、放射能の何とかベクレルとかシーベルトとか出てきますけど、本当はどこまでが危険で、どこまで大丈夫なんだという話が、なかなか目に見えないものですし、わからないと。情報が錯綜しているようなところもあって、ちょっとどこかで見かけた分が、公式発表が一番信用できないとかいうような記述もどこかで見かけたりして、どう対応していいかというのは非常に難しいと思うんですけれども、あと、ちょっと見つけた記事が、武田邦彦さんといって、中部大学の教授がいらっやって、結構テレビとかでも出ていらっやるので御存じの

方多いかもしれませんが、行政がやることがあるとしても、やはり一人一人が自分の身を守るという意味で、放射能の被曝を減らすための努力といたしますか、活動、できること、市民レベルでできることというのを整理しておく必要があるのではないかと思います。

実際に福島のほうでは、PTAとか消防団とかが協力して溝掃除などをして、ホットスポットですかね、放射能が低いところにたまりやすいという傾向があるということで、地元の消防団やPTAが協力して溝掃除等をして子どもたちの被曝量を減らすというような取り組みも行われているようです。やはりそういう市民が自分たちでできることというものについても、ある程度整理をしていく必要があるんじゃないかと思いますけれども、その辺について、この対応をお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

恐らく今やっぱり混乱しておるわけですね。シーベルトとかシューベルトとか、いろいろ混乱しておって、なかなかわからんわけです。ある数値だったら我々はいいだろうと思っ  
ても、やっぱり学者、例えば武田先生は厳しかですもんね。他方で、中川先生だったら大丈夫とかというふうになるわけですね。ですので、何を申し上げたいかという、やっぱり落ちつくまでもう少し時間がかかるですね。今何でんかんでん悪かというふうになつて  
すもんね。ですので、それはもう少し時間が必要だろうというふうに思うことと、もう1つ、市民の皆さんたち、議員の皆さんたちに呼びかけたいのは、やっぱり話を聞いてほしいとい  
うことなんですよ、いろんな立場の人の。

一つ私から報告を申し上げますと、来月7月2日土曜日の13時から山内町の農村環境改善センター、上の上ったところですね。支所の近くの農村環境改善センターで、放射線がんの中川恵一先生が講演をしんさるわけです。いっぱいテレビとかにも今出よんさるですもんね。この中川恵一先生が原発の放射能に関しても自分の見解を言うということ、あるいは世界的な潮流について言うと、原発の是非じゃなかですよ、この放射線ですよ。人体に与える影響がこんくらいだつて、あるいはこれは大したことがないとか、これは大したことがあるとい  
うことを中川先生言うというふうにおっしゃっているんですね。ですので、もちろんこれは主軸はがんの撲滅の講演なんですけれども、その中で割合多く今回の原発の放射能の人体に与える影響について述べられるということですので、ぜひお越しいただきたいというふうに  
思うわけですね。

やっぱり今いろんな情報があつて、恐怖感というのを私も感じます。ありますが、やっぱり正確なことを知った上で、ただ、中川先生の話だけ聞けばよか話じゃなかですもんね。ですので、例えば、さっき話が出ました武田先生とか、いろんな方々の話を聞いて、自分なりに思いを持っていく。それと、大事なものは、もう少ししたら、あと二、三カ月したら、遅か

と言われるかもしれませんが、国のほうでも放射能の基準を立てようという話を私も聞いておるとですよ。やっぱり余にもいろんなことを言うて、あれは文科省がいかんやったね。1ミリシーベルトを20に上げたでしょうが、それでまた戻しとるですもんね。ああいうことをするぎいかとですよ。ですので、先ほどありましたように、公式見解が一番当てにならんというのは私も聞いていますけれども、ただ、公式見解を言われんぎんと、我々もなすすべがなかわけですね。ですので、もう少しここは時間がかかるのかなというふうに思っております。7月2日土曜日、13時にお会いしましょう。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

あと、日ごろできる放射線に関する取り組みとして、山口裕子議員の質問でも出ましたけれども、サーベイメーターですか、武雄でも日ごろから日常の放射線というのがどのくらいあるのかというのを数字で市民が知っておくというのが、関心を高めるという意味でもいいのかなど。これからいろいろ避難訓練とか防災訓練とか企画というか、計画されることがあれば、そういう実際に市民が計測してみるとか、そういう放射線の数字というのを身近に感じるというような取り組みも日ごろからやっていくと、いざというときに落ちついて対応できるんじゃないかなと考えておりますが、どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり議会というのはいいですね。サーベイメーターを市費を使って購入したいとしたら、これは名前は絶対言うなと言われましたので言いませんけど、ある市民の篤志家で、ぜひそれは自分たちで買わせてくださいということで、それを市に寄贈したいということの申し出がありました。やっぱり武雄市議会ですよ。私が何ぼ言うても、なかなかそれは市民の気持ちに伝わらんですけど、やっぱり議会を見よんさるわけですよ。それで、貴重な税金ですので、放射能といったときには、もし50万円なら50万円、100万円なら100万円というのほかに使ってくださいと、市民の福祉向上につながることに使ってくださいと、私がつてのあるけんですね、それで私が買ってすれば寄贈しますということがあります。

ですので、そういう意味では感謝申し上げますとともに、やっぱり知るといのはすごい大事だと思うんです。ただ、先ほど再三言いますけど、数字を見てもわからんわけですね。僕もわからんし、市民の皆さんもわかりませんので、この数字の意味するところもしっかり、さっきの公式見解も含めてそうなんですけれども、それもあわせて出してもらう、あるいは出す必要があるのかなというふうに認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

それでは、これに関してはやはり国のほうで基本的な大きな方針は出してもらわないと、なかなか各自治体の動きがとりづらいということはあると思いますけれども、順次体制を整えていくというのが必要だと思います。

それでは、次の質問に移ります。

特産品開発についてということで通告をさせていただいておりましたが、具体的な内容としてはレモングラスに関して質問をさせていただきたいと思います。

レモングラス課というのはもう既になくなってはおりますけれども、今非常に不景気といえますか、今回の大震災の影響あるなしにかかわらず、非常に地方の経済は低迷していて、商売をやっている方、会社を営んでいる方、先が見えない、そういう状況で、失業者の方もなかなか職が見つからないと、そういう状況が続いております。そういう中で、市民の人たちが希望を持って生活していくためには、やっぱり頑張る努力すれば報われるといえますか、働く場所の確保というのが非常に大切になってくると。そのレモングラスの取り組みというのは、いろんな目的はあるかと思いますが、雇用の場の確保という目的も当然あったかと思いますが。これレモングラス自体は民間企業が取り組まれているということで、余り詳しい情報は突っ込んだところまでどうかなとは思いますが、作付面積とか売り上げの推移等を可能な範囲で教えていただければと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私からお答えしたいと思います。

（パネルを示す）まず、やっている方々なんですけれども、農事組合法人武雄そだちレモングラスハッピーファーマーズで、これは3年前、平成20年の2月に設立をされております。作付面積の推移は、平成20年が1.9ヘクタール、平成21年が2.1ヘクタール、平成22年が2.4ヘクタール、平成23年度が3ヘクタールを予定しています。売上高の推移は、平成20年、これは半期になりますけど、570万円の売り上げでスタートをして、平成21年は約2,000万円、平成22年は約2,400万円となっています。生産者、雇用者数については、大きく2カ所なんですけれども、まず農事組合法人武雄そだちレモングラスハッピーファーマーズの会員の皆さんなんですけど、朝日町、中野みつば集落営農組織の皆さんが主にやっておられます。これは現在、この組織の副会長の岩永敏雄さんがハッピーファーマーズの代表理事を務めておられて、地元の皆さんたちと一緒にやっておられるというのがまず1つです。

（パネルを示す）それと、もう1つなんですけれども、これは若木町川内なんです。藤

川昇さんと協力者、もうしょっちゅう雑誌でこうやって取り上げられるんですけども、これは平成23年3月に佐賀県が発行した「さが棚田だより あぜみち」に掲載をされています。この地区の耕作放棄地や遊休農地の利活用をして、60アールのレモンガラスの栽培を行っておられます。この地区で栽培されるレモンガラスは品質が良好で、今後は若木町の棚田を中心に契約栽培農家をふやしていく方針だそうです。

ですので、大きくこの2つでやっておられるんですけども、22年度の実績として、農業法人の生産加工販売部門で通年雇用が4人、期間・パート約20人を雇用されておりますので、これが今後、これだけ不況になっても伸びているのは伸びているんですね。これはうちの特産品課の秀島課長が中心に今弦巻と一緒にやっておりますけれども、私のところに入ってくる情報もかなり需要がふえてくるようです。ですので、それにのっける形でこちらの生産体制も充実していく必要があるだろうというふうに思っておるんですが、ただ、余りいたずらに広げようと思っていないんですね。やっぱりJASに認定された有機が基本ですので、そこは勇気を持って、なるべく品質の確保をちゃんとやって、これがブランドにつながっていくようにしていきたい。ただ、これはレモンガラスにとどまるだけではなくて、何度も言っていますけど、これは旗艦産業なんですね。フラッグシップのこちらの旗艦ですので、これと一緒に、例えば、橋下のイチゴであるとか橘のお米であるとか、さまざまのところと一緒に持っていけるような、やっぱり武雄といえいろいろな元気な野菜があると、果物があるというふうに持っていく一つのフラッグシップだなというふうに思っておりますので、そういう意味での御理解と御支援をお願いしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

ありがとうございます。

着実に作付面積、売り上げ等伸びているということで非常に喜ばしい限りでございますけれども、あと、実際に出荷先、納品先とか、あと提携先とか、今どういう動きがあっているのかというのをかいつまんででも結構ですので、御説明いただければと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ある人がおっしゃったんですけどね、例えば、嬉野茶って歴史800年なんですね。人によっては600年とかいう言い方もする人がいるんですけど、栄西さんが持ってきてお茶が一気に広まって、武雄はたかだかまだ実質3年か4年なんですね。ですので、そういう意味でいうと、嬉野茶の関係者の方がおっしゃったんですけど、これほど驚異的な伸びをしているのは私は見たことないというふうにおっしゃったんですね。まあ賛否両論ありますよ、あるん

ですが、伸びからすれば、うちも800年たったときはレモングラス王国ができるように、ならないと思いますけど、したいと思うんですが、その中で、先ほどの質問にお答えしますが、出品・納品先でポイントが幾つかあるんですけども、伊勢丹新宿本店、この伊勢丹がやっぱり大きかったですね。伊勢丹に卸せたというのがインパクトがありました。岩田屋、福岡大丸、佐賀玉屋、生協関係ではグリーンコープ、らでいっしゅぼーや、原材料納品の大口取引先としてお茶メーカーの菱和園、名古屋とハーブ専門店の南阿蘇のクマモト敬和さんなんですけれども、ここからポイントで、これから多分ブレイクしますけれども、ことし4月に株式会社浜勝さん、とんかつの。武雄市のレモングラスによる地域活性化が評価されて、私も会長さんにお目にかかりましたけれども、浜勝ハーブ物語でハーブ豚とハーブティーのコラボで全国展開になります。今は福岡だけですけれども、今全国展開の準備を進めておられて、やっぱり格好よかですね、（パネルを示す）こういう感じになるわけですよ。うちでつくったのと大違い。これね、すごいのは浜勝は全国に111店あるんですよ。それで、ことしの4月に、先ほど申し上げましたけど、福岡市内の10店舗でレモングラスティーはメニューの一つとなって出されて、非常に好評だそうです。委託販売も行っておられます。秋には、先ほど申し上げましたように、111店、全国展開の計画がありますので、この機会にさらに一つのブランドになるのかなと思っています。

それと、最後にしますけれども、起爆剤になったのは、これです。（パネルを示す）やっぱり伊勢丹ですね。伊勢丹の上野奈央さんという女性バイヤーが評価をされて、新宿伊勢丹本店の高級紅茶専門店リーフルに伊勢丹ブランドとして販売をされています。3年連続伊勢丹本店で、というのも極めてまれですけれども、毎年夏にフレッシュレモングラスフェアの催事を行っています。ことしは7月と8月の2回のフェアを依頼されていますので、またこれを中心として、私も行こうと思って、一緒に行かんですか。行って、また売り子をして、トップセールスをしていきたいと思います。要はつくっている人、あるいは市を代表する人が行くと、やっぱり売れるわけですよ。ですので、そういう意味からすると、さらに伊勢丹というある意味頂上、それとさっき言った浜勝もある意味頂上ですもんね。それともう1つ大事なものは、スーパーとかいろんなところの、本当に市民の皆さんたち、県民の皆さんたち、国民の皆さんたちに触れ合うところにも出していくということが必要なのかなというふうに思っていますので、今後そういったことも考えてやっていきたいなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

本当に夢が広がるというか、ぜひ武雄を引っ張る特産品として発展させていっていただきたいと思います。

そして、やっぱり最終的には地元の企業とか農家の方からすると、自分もできんとやろうか、自分も携わってみられんとやろうか、そのためにはどがん条件ばクリアすつきよかとやろうかという話が必ず出てきますね、企業の多角化とかで検討されたりもすると思います。いたずらに作付面積をふやすということはないとおっしゃっていますが、やはり生産者は生産者として優良な生産者を育てるという意味でも要件的なものはある程度皆さん知っていただいて、検討していただくというのは必要じゃないかなと思いますので、レモングラス生産に携わってみたいという人はどういう要件をクリアすればいいのかという、その辺の話をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

要件等は特にないんですけど、ここで注意しなきゃいけないのは、私も兼業農家のせがれで、ミカンですよ。ミカンは昭和50年代の当初、これからミカンのやるばいとかいうて、うちの親父もじいさんも、ミカン、ミカン、ミカンやったすもんね。そいぎ、どこの家庭も、農家の皆さんたちもミカン、ミカンですよ。そしたら、何が起きたかという、大幅な生産供給過剰と価格の暴落ですよ。私はいまだにミカンの捨てられた裏山が夢に出るぐらいなんですよ。ミカン好きですよ、好きですけど、だから、それを思い出したときに、やっぱり経験に学ばばいかん。どういうことかという、いたずらにつくるぎ、暴落が始まるわけですよ。そいぎ、せつかく今やっていきよるとが共倒れになる危険性があるわけですよ。ですので、何が大事かというとは、やっぱり先ほど申し上げたとおり、需要ですよ。需要を見ながら徐々に広げていくということですね。私が一番苦手なのは拙速なんですよ。ですので、そこは慎重に慎重に慎重にして広げていったときに、ああみんなが入ってこれたというふうにしたい。ただ、これは食用だけじゃなくて、例えば、入浴剤とかいろんなのに使えますもんね。そうなってくると、これは言い方は悪いかもしれませんが、食料品ほどシビアにする必要なかわけですよ。やっぱり口に入るものというのは最上に気をつけばいかんすもんね。ですので、例えば、これが防虫剤とか殺虫剤の用途に広がっていくとなったときには、それはやっぱり一気に広げていかれるというふうに思いますので、我々も発想を幾つでも持っておく必要があるだろうというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

どちらにしてもまず需要の拡大といいますか、やっぱり足らん、足らんというような状況に早うなってもらいたいと思います。

あと最後に、さっきちょっと出ましたけど、佐賀県のほうで発行されている「さが棚田だ

より「あぜみち」というのがありますけれども、これですね。（資料を示す）ここの記事をちょっと紹介させていただきたいと思います。読むと長いですので、項目だけですね。

「レモングラスで新しい産地づくりにチャレンジ」と書いてあって、「川内地区の棚田」。遊休農地活用でレモングラス栽培、高収入が期待できる農作物、人気の棚田産、栽培面積を拡大、生産・加工・販売の拠点ハッピーファーマーズ、売れる商品づくりがやりがいのある農業にということで、非常に頼もしい記事が載っております。

その最後の文章をちょっと読ませていただきますと、「生産者にとって丹精込めて育てた農作物が消費者から喜ばれ、売れることは何よりもうれしくやりがいにつながります。棚田を棚田として生かしながら売れる農作物をつくって、後継者を育て、地域を活性化していく、そんな理想的な農業の未来がレモングラスで実現する日が来るかもしれません」と書いてあるんですね、最後。ぜひこの「かもしれません」を削除できるように、頑張らんといかんと思うんですけども、現状を踏まえて、今後の、まあレモングラス課はなくなったにしても、方向性といいますか、武雄市としても側面から金かけんでもやれることはあると思うんですよ、支援策というのは。そういう意味で、武雄でレモングラスをどう育てていくかという大きな方向性等があればお願いします。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

いや、まさかレモングラスが棚田でこれだけなるというのは夢にも思わなかったですね。全く期待しとらんやったとですよ。すみません、藤川さん。それともう1つ、何で棚田がいいかということ、水はけの問題もあるんですが、もう1つは若木の川内ですもんね。そいぎ、寒暖の差が非常に大きいということで、まさか寒暖の差が大きいからレモングラスの香りが増すとか味が増すなんていうのはやってみらんぎわからんわけですね。これは100の議論より1の実行のいい例だと思います。もうさんざん言われたです、始める前。もうそがん若木でもだめばいとか、いろいろ言われましたけど、やっぱり余り専門家の言うことをうのみにするぎいかんというのがよくわかりました。ですので、やってみてだめやったらやめればいいし、やってみてよければ伸ばせばいいしということで、これはいい例になったと思います。

それで、今後なんですけれども、やっぱり中山間地、あるいは耕作放棄地、ここはまだまだにふえよるですよ。これを全部レモングラスで埋めるということは不可能にしても、一つの武雄モデルとして出していきたいというふうに思います。だから、例えば、お隣の市が町がレモングラスじゃなくてほかのハーブでもよかわけですよ。余りレモングラスばかりつくってもらうぎ困るけんが。例えば、ある市はレモンバームとか、ここは何とかというふうにして、武雄モデルをつくっていきたいというふうに思っています。

それと大事なのは、やっぱり顔の見える関係です。ですので、地元農家との契約栽培という形で生産者と栽培面積を徐々にふやしていこうというふうに思っています。そして、側面支援になりますけれども、やっぱり行政のかかわりというのはすごい大事なんですね。皆さん一生懸命されていますし、この行政のかかわりがなくなった時点で、私は武雄のレモングラスというのは一つの大きなブランドになるというふうに思っていますので、もう少し秀島課長と弦巻、両山内コンビには頑張ってもらおうというふうに思っています。えらいですよ、土日行きよるわけですよ。大体土日に秀島に電話するぎんたかからんですもんね。なしかというぎ一緒に作業ばしよるとですよ。しかも、電波の弱かところで。ですので、そういう意味ですと、やっぱりうちの職員もすごいなというふうに思いますので、ぜひそういう意味で、いろんな採用の話とか言う人もいますけど、御理解と御協力をお願いしたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

私もこの質問をするに当たって、特産品課のほうに行って秀島課長からいろいろお話を伺ったんですけども、本当に愛情を込めて一生懸命やっていたらっしゃるんですね。本当にありがたいといいますが、そういった取り組みがぜひ大きく実を結ぶことを願いながら、次の質問に移らせていただきます。

次はお結び課についてなんですけれども、このお結び課の取り組みというのは、今回、武雄の長期的な発展といいますか、まちの活性化を考える上でも、また本人さんの幸せを考える上でも非常に大切な取り組みだと感じております。まだ今年の9月に立ち上げて、それから準備を始めてということで、まだ期間としては短いかもしれませんが、登録者数等の実績、男女別の数字等を教えていただければと思います。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

お結び課につきましては、先ほど議員からおっしゃっていただきましたように、平成22年の9月に設置をいたしたところでございます。9月から今日まで約9カ月が経過しているという状況でございます。

登録につきましては、1カ月の準備期間を経まして22年の10月から受け付けを行っているところでございまして、現時点で男性が160名、女性が91名、総計で251名を登録している状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

251名登録ということですね。どうですかね、非常に好調といいですかね、私の想像からいくと、数字的には非常に伸びているのかなと思うんですが、この中でお見合いまでしたというような事例があれば、どれくらいあるのかというのをお聞かせ願えればと思います。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

お結び課の取り組みにつきましては、お見合いを中心に組みようということで取り組んでおりまして、お見合いにつきましては、ことしの1月から取り組みを実施しているところでございます、現時点で27組を実施しているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

1番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

27組ということで、すごいなという、本当に一生懸命取り組まれているんだなと思います。27組、お見合いがということですね。その先というのは、なかなかこれはプライベートな問題で、なかなか突っ込めないというか、難しい面もあると思います。とにかくこれは焦ってもですね、焦って結果だけ求めてもちょっといけないようなたぐいの問題ですので、ぜひこの調子で取り組んでいただきたいと思います。

あと、今でも251名の登録者数ということではあるんですけども、実際これ結構プライバシーがかかわる問題で、実際ちょっと興味はあるんだけど、どがんしゅうかにやとか、あとは皆さん仕事をされていて、なかなか平日昼間とか行きにつかしか、そういうことが原因で登録を見送っていらっしゃる方とかもおられるかもしれませんので、例えば、休日とか時間外についての対応がどうなっているかをお聞かせ願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、さきの答弁にちょっと補足しますけれども、27組のお見合いを今実施して、12組の方が交際中なんですね。また、現時点で5組がお見合いの予定になっている。これはやっぱりお結び課はすごかですよ。きょうもお結び会員の方が、中島さんもお見えになっていますけどね、——そがん、みんな見らんでよかですよ。やっぱり古川課長初めとして、さっきの質問にもありましたけれども、対象者のほとんどの方が就労されている、働きよんさるわけですね。そしたら、登録面談、紹介業務とか相談対応を時間外や休日に希望される方がやっぱり多いんですね。ですが、希望が余りにも多いんですよ。ですので、すべての方を要望どおり時間外とか休日はちょっと不可能ですので、なるべく事情等を考慮し、必要と判断され

る方については時間外で対応していますけれども、ここでお願いは、それ以外の方はぜひ時間内の来庁をお願いしたいということなんですね。やっぱり時間外が多かたですよ。そいぎ、時間内だったら割とゆっくり話ができるというメリットもありますので、ぜひ万障お繰り合わせの上、それはお願いしたいというふうに思っています。

ただし、お見合いについては両人の都合を調整し、日時を決めることになるため、ほとんどが時間外、休日対応であります。時間外、休日の対応は経費節減のため、原則、古川課長が対応されていますので、もう命をささげておられます、古川課長は。それもぜひ議員の皆さん、市民の皆さんたちにも御理解と応援をお願いしたいと思います。

そこで、お願いは、こういうお結び課があるよというのをぜひ議員の皆さんたちから地区の皆さんたちに広げてほしかわけですね。そういうことで、さっき答弁があったかもしれませんが、どうしても男性の比率が高かたですよ。登録の男女比が男性が63.7%、女性が100引く63.7やけんですよ、女性が36.3%ですもんね。ですので、その幅を、多様性の確保という趣旨からもぜひお声がけをお願いしたいと、このように思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

1 番朝長議員

**○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕**

あと、私は対象外ですけれども、登録する人の立場になって考えると、ちょっとお結び課に頼んで結婚したというぎ、ちょっとちゃーがつかにゃというごたるところですね、人によってはおんさるかなと。その辺、ゴールインまでしたら、お結び課でばあっと公表してということはなかたでしょうけど、その辺のプライバシーの扱いについてあればお願いします。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これはもうおっしゃるとおりですね。プライバシーについては最大限尊重して、公表等については御兩人、あるいはその御家族の皆さんたちのきちんと御意思を確認した上で、これも拙速はだめです。ですので、そういうふうに十分配慮しながら進めてまいりたいというふうに思います。ただ、今ちょっと時代が変わって、ぜひ公表してねというとも結構あるとですよ。それはその御本人の意思をそういう意味でも尊重してやっていきたいと、このように思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

1 番朝長議員

**○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕**

本当に気を使いながら、非常に難しい問題に取り組んでいらっしゃると思います。

それで、なぜ私がこの場でお結び課について質問を取り上げたかといいますと、私のと

ころにあるお母さんから相談がありまして、お結び課に頼んどるばってんが、何もしてくん  
さなんていうてから私のところに来んさったわけですね。いや、その何もということは幾ら  
何でもなかろうと、そいぎちょっと話ば聞いてくるけんということで行ったところ、古川課  
長に丁寧に対応していただきまして、本当に今市長の話にもありましたけど、一生懸命しよ  
んさるですね。休みとかも意識せんで、いつでもやるばいという感じで、非常に豪快な性格  
といますか、気さくな方で、楽しく話をさせていただいたんですけども、その中でも細  
かく話をしていくと、プライバシーとかに対する気配りというのが非常に繊細にやっておら  
れるというのは話してみて感じました。ということで、本当に一生懸命やっておられるとい  
うことをぜひ皆さんにも知っていただきたいなど。個人情報ということもあって、一生懸命  
しよんさるとにそれをみんな知らないで苦情が出るというような状況がありましたので、こ  
の場で質問に取り上げさせていただきました。本当にしっかり古川課長初め一生懸命やっ  
ていらっしゃいますので、もし登録を迷っている方がいらっしゃったら、ぜひ迷わずに登録を  
お願いしたいと思います。

次の質問に移らせていただきます。

みんなのバスについてですけども、大体の状況等については先日の山口等さんから質  
問があっておりますけれども、まだ実験運行というか、試験運行、これも名前がいかんとい  
う話もあったんですけども、今の時点で市民の方から等の評判といますか、どういう声  
が届いているかというのをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

評判については個々ありますけれども、私からはアンケート結果の概要を申し上げたいと  
思います。

平成22年度の実験運行終了後に実施したアンケートの結果、みんなのバス利用者の約9割  
の方が実験運行についてよかったとの回答です。9割の方がよかったという回答。それと、  
みんなのバスの利用者の約7割の方が外出の機会がふえたと回答されています。総じていい  
評価だと思いますけれども、その中でも圧倒的に多かったのは病院の通院や買い物などが便  
利になったという回答ですよね。それともう1つが、外出しやすくなり、人と会って話をす  
る機会がふえてよかったという声が聞かれています。そういった意味から、これはやってよ  
かったかなというふうに思っています。

ただ、声で、いやうちの地区も通してほしいとか、もう少し時間を考えてほしいとかとい  
うのもありますので、それは全部には対応できないかもしれませんが、きめ細かく聞いて、  
できることはきちんとやろうというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

あと、先日の、またこれも山口等議員の質問の際にもありましたけれども、やっぱりコストの面というのがどうしても避けて通れない問題だと思いますけれども、今試験運行で1 試行当たり3 カ月での運行経費の実績と、あと利用者数の概要等がわかれば、そこまでお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

みんなのバスの実績でございますけれども、平成22年度に行いました実験運行につきましては、トータルで1 便当たり1.9人という数字になっております。地区によっていろいろ利用者数が異なりますので、全部でという形で報告をいたしているところでございます。

あと、運行経費につきましては、22年度分が601万9,000円ちょっとということでございます。これにつきましては、緊急雇用の創出事業を活用しておりますので、全額国のほうからいただいて運行しているという状況でございます。

ちなみに、23年度は5月だけの実績でございますけれども、全部を平均して1 便当たり2.4人の実績が上がっています。経費につきましては、まことに申しわけございませんが、まだ出しておりませんので、改めて後でお示ししたいというふうに思います。（発言する者あり）

1 便当たりの平均だけ申し上げましたけれども、利用者数につきましては、平成22年度で山内町の今山で1,389人、船の原で381人、立野川内で481人、北方のほうで1,405人、若木のほうで568人、武内のほうで809人、合わせて5,033人の方に平成22年度は御利用いただいているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

私もおくれればせながらですけども、先日、一回乗ってみようということで、武内地区のほうで一回乗せてもらいました。残念ながら、平日の一番最終便ということで、地元の方はだれも乗っていらっしやらなかったんですけども、その分運転手の方にいろいろお話を聞かせていただきました。それと、あと運行経路を見て感じたのが、地元をべたっと回るわけですね。よかとかなど、何々様宅前、何々様宅前ともう個人の、こがしこ人のおんさるとねいうごたる、それを見ればわかるごたる、非常に密着型というか、ああなるほど、乗ってみてわかりました。運転手の方も利用されている方には非常に好評いただいているということでした。

コストの面もまだまだ今の時点では多分1人当たりとか勘定してしまうと、高いような感じになるのかもしれませんが、やっぱり乗ってみて思うのが、いろんなコスト削減の方法とか、その他の活用というんですかね、パトロールとか、それとやっぱり武雄自身のイメージアップにもつながると思いますし、安心して住みたいまちというようなイメージをつくる、あと地域コミュニティーの活性化とか高齢者や弱者の見守り、そういういろんな副作用というんですかね、が期待できるなど感じて乗らせていただきました。

先日、もうちょっと試験運行なんて言わずに、とにかくやりますよということで市長のほうから答弁が 있습니다ので、これ以上私のほうから、それはそれでまたいろんな工夫をしながら活用策を検討していくと、もっといいみんなのバスになるなど感じたところでした。

それで、そのイメージアップに絡むんですけれども、以前、みんなのバスにふさわしい親しまれるデザインというんですかね、絵柄、バスのデザインについて何かちょっと検討するような話があったような気がするんですけれども、その何か進展等があればお聞かせ願えればと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答え申し上げます。

さきの答弁で申し上げたように、まだこのバスが例えば立野川内とか北方とかいうのはまだ決まっとらんわけですね。それが決まった時点で、できればその当該小学校の皆さんたちに絵をかいてもらおうと、ペインティングしてもらおうということも考えていますし、場合によっては、いやこれは自分たちのバスやけんが、これは老人会でかくばいということがあれば、一球入魂とかですね、それはそれで私はいいいと思っていますので、バスの帰属先が一定決まったときに、そこの地区にお諮りしようと、特に区長さんにお諮りして、いや私のところは小学校と、いや私のところは例えばさっき申し上げたように、老人会とか婦人会とか、きょう川良の区長もお見えですけれども、そういうふうにしていきたいなというふうに思っています。ちょっともう少し時間をいただければありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

これからますます本当にみんなから愛されるみんなのバスになっていくよう取り組んでいただきたいと思います。

それでは、最後の質問になりますけれども、市長の政治姿勢についてということで、ちょっと刺激的な質問項目を上げさせていただいております。

これについては、ちょっと今度の6月議会で感じたことが、6月の一般質問の市長の答弁を目の前で聞かせていただいております、何か非常に言葉遣いとか丸くなられたといいますが、非常に丁寧になられたようなイメージをちょっと今回私は思っていたんですけども（発言する者あり）ああ、そうですかね。

質問としましては、きょう今までの質問で取り上げさせていただきましたレモングラスとかお結び課とかみんなのバス、本当にいい取り組み、施策が行われていると思います。やはりそういうのを本当に生かしていくためには、施策のよさと、そして市民の協力というのが必要不可欠になってくると思います。そういうところでちょっと懸念を私が抱いた分がありましたので、質問として取り上げさせていただいたんですけども、まず、最初の市長の選挙のとき、5年前、最初の選挙のとき、住んでよかった、生まれてよかった、そういう武雄市にしたいということで武雄に帰ってこられたと思うんですけど、これを再度といいますか、この志について、今もそのまま変わらないということよろしいでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

変わりありません。

○議長（牟田勝浩君）

1番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

それで、住んでよかった、生まれてよかったと感じていただきたいというのは、武雄市民全員であるはずと思うんですけども、そこはそれで間違いないでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは無理ですけども、理想論としては一人でも多くの方がそう思ってくださいようにするのが首長の務めだし、それを何というんですかね、応援していただくのが議会の責務であると思うし、後で出てくるとは思いますけど、業界団体の皆さんたちもそれにちゃんと呼応するのが私は責務だというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

1番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

この質問の最初のところで、市長の決断力、判断力、行動力というのは他に類を見ないといえますか、物すごい能力をお持ちだと思います。その逆に、決断力、行動力というのが、何というんですかね、市長の日ごろの言動を聞いていて感じるのが、非常に闘争心が強いご

たるなど、ちょっとこれは私の感覚ですけれども、だからこそ、負けん気の強さというのが行動力とかにあらわれているんじゃないかなと思うんですけれども、これが政策のよしあしではなくて、ちょっとした言葉遣いとか表情とかで市民が不安を感じる部分があるということで、ちょっと今回はこの質問をさせてもらったわけです。

そういう気持ちで質問を上げさせてもらいましたけれども、私は今回の先週の一般質問等を見ていて、大分何というか、変わられたのかなと、言葉遣いとかですね。ちょっと感じたところもあったんですけれども、とにかくそういう市民が不安を感じているというのは……

〔市長「具体的に言うてくださいよ」〕（発言する者あり）

いろいろとあります。ということで、それについて考えをお聞かせください。（「抑えろ、抑えろ」と呼ぶ者あり）

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

市民が不安ということで、私が答えられるわけじゃないじゃないですか。それだと、私もそれは心外ですよ。例えば、だれそれが、あるいはどの団体がそういうふう具体的にあってということだったら私は答えられますよ。ですが、市民が不安に思っているからそれに答えてくださいというのは、それはないんじゃないでしょうかね、どうでしょうか、朝長議員さん。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

具体的なきっかけとしては、確かにブログで特定の業界等を取り上げて、こびを売らないというような言葉があって、それについて私のほうに何かあったとやろうかということで問い合わせがあったのがきっかけではございます。

今後の武雄の発展を考えると、どうしても理屈では言えない部分が大いとは思いますが。けれども、感覚的な話で申しわけないんですけれども、やはり私たち議員とか、子ども議会等があったときに、やはり市長とか議員とか、子どもがなりたいたと、一つの職業として選びたいというような、そういう尊敬される立場、そういう立ち居振る舞いというのは、私たちに求められていると感じるわけです。その言葉遣い、表情、そういうもので本当に市民の、具体的な政策もそうですけれども、やっぱり市民がどこで安心するかといたら、市民のことを考えてくれている、そう市民が感じること……

○議長（牟田勝浩君）

朝長議員、政策に関するものを中心にお願います。（発言する者あり）

朝長議員、市政事務に対する一般質問で、通告の部分も今の趣旨とはまたちょっとかけ離れている部分もありますので。

○1番（朝長 勇君）（続）

わかりました。

そしたら、とにかく武雄の発展のために力を合わせて頑張っていきたいということで、協力して頑張っていきたいと思いますということで、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（牟田勝浩君）

以上で1番朝長議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、5分程度休憩いたします。

休 憩 11時18分

再 開 11時34分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き再開いたします。

先ほど1番朝長議員の質問の中で、個人の表情とか、口調とか、そういうふうな個人部分が多々ありましたので、これは今後ないように強く注意いたします。（発言する者あり）

では、一般質問を続けます。

次に、6番松尾陽輔議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、公明党、松尾陽輔の一般質問をただいまより始めさせていただきます。

質問の前に、今回、国難と言うべき東日本の大震災により被災された方々へのお見舞いと、一日も早い復興を心より願う一人として、震災よりはや3カ月、いまだに8万人近い被災者の方が避難生活を余儀なくされており、3万棟近い仮設住宅も建設がずれ込み、さらには瓦れきの処理、さらには義援金の支給等、遅々として進んでいない状況が被災地から悲鳴のように聞こえてきます。

今の政府・与党に苦言を一言。国難と言うべきこのときに、きょうの新聞の一面にもありました、一枚岩になれていない今の政府・与党、一連の政治責任は非常に重いと言わざるを得ません。政治の原点は常に国民の目線で、さらには国民の立場で国を治めていくことにあります。

皆さん、昭和初期、童話詩人の巨星と言われ、27歳の若さで亡くなった金子みすゞの「積もった雪」を御存じでしょうか。ここで積もった雪の一節を皆さんに御紹介をして、政治の原点とはという思いを話をさせていただきます。

積もった雪。「上の雪さむかろうな。冷たい雪がさしていて。下の雪重かろうな。何百人ものせていて。中の雪さみしかろうな。空も地面（じべた）もみえないで。」。果たして中の雪のことにどれだけの人が思いをはせられているのでしょうか。中の雪のことに今の政治はどれだけ思いを寄せているのでしょうか。私はこの中の雪に政治の原点が見えると思い、紹介

をさせていただきます。

それでは、通告に従って、安心・安全、住みやすいまちづくりをテーマに一部順番を入れかえて、最初に、災害対策の現状と課題への取り組みについて、2つ目に、住みやすいまちづくりへの提案事業、最後に、財政と経済の現状と課題への取り組みについて質問をさせていただきます。

それでは、最初の質問に入らせていただきます。

未曾有の被害を出した東日本の大震災、冒頭にも申し上げましたけれども、この被災地を見たときに、孤児になった子どもたち、また、最愛なる夫、妻、子どもを亡くされた被災者の方々を、また、被災者の方々に思いをはせたときに、この痛ましい教訓を絶対に無にはしないように、今以上に武雄市も災害防災対策は行政だけでは限界がありますので、皆さん市民力、地域力、民間力、さらには議員の行動力、議員の発信力が必要な時期であります。私自身もいろんな方面にアンテナを張りながら、災害に向けた情報の収集に努めさせていただいております。その中で目にとまったものが今から申し上げます被災者支援システムの導入、運用についてであります。

具体的な中身については質問席からさせていただくとして、この被災者支援システムを武雄市は導入、運用をしているのか、していないのか、具体的な内容に入る前にまず確認をさせていただきます。御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

現在運用いたしておりません。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

運用していないということですがけれども、私からの提案ということで、今回、被災者支援システムの導入をぜひということで市長に御提案を申し上げたいと思います。

一昨日から市長の答弁の中に、実際現地に行かれて、もう行政が混乱していると、そういった状況の中で、平時のときにいかに行政が備えをしておくかということも常々答弁の中でおっしゃっていただいております。その中で、そしたら、何を平時で行政は備えておくべきかという部分を二、三点お尋ねさせていただきながら、御提案をさせていただきたいと思います。

島原の普賢岳の災害からもうはや20年ですよ、皆さん。それと、阪神・淡路大震災から皆さん16年。早いですね。もうあっという間ですよ。この教訓をいかにとどめておくかというか、忘れずにですね、今回の大震災もさることながら、備えが行政としていかに大事かとい

う部分ですけれども、この被災者支援システム、当然、支援システムですから、住民基本台帳がベースとなって、いろんな情報を入力していくわけですよ。その入力することによって罹災証明、義援金の交付、さらには救援物資の管理、仮設住宅の入居が一元的に管理ができるわけですね。それが2009年1月、総務省もこれに対しては被災者支援システムということでバージョンⅡを発表もしております。それは当然、災害があったときには人命救助がそれはもう第一優先ですよ。ただ、人命救助が終わった後は、いかに行政が支援をきめ細やかにしていくかということが一番大事な部分だと思いますから、市長が言われる平時の行政の備えとしてのこの被災者支援システムの導入検討をぜひ御提案をさせていただきますけれども、市長の御見解をまず確認させていただきます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

では、気を取り直して答弁をしますよ。

本当に思うのは、やっぱり被災地に行ったときも、行政のシステムが本当に混乱しているということを目の当たりにして、西宮市が開発をした被災者支援システムなんですけれども、やっぱり一長一短あるんですよ。我々も見ましたが。その中で、今、川良にお住まいの山崎耕史最高情報アドバイザーと今協議をしていますけれども、武雄市にとっていいシステムということでぜひ取り入れながら、山崎情報アドバイザーと協議をしながら、それが一つの新被災者支援システムになって、我々がパッケージとして今度は売れるようにしていきたいと、それが地域のそういう被災とか、防災のかなめになるようなシステムをぜひつくってまいりたいと、このように考えております。提言ありがとうございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

当然、地域に合ったシステムづくりが一番大事な部分だと思いますから、ぜひとも研究、検討を重ねていただいて、行政としての備えをぜひお願いをしておきたいと思います。

このシステムは、西宮の職員が開発したシステムなものですから、非常に安価といいますか、莫大な費用を投じないとシステムが運行できないかということじゃありませんから、費用的にはもう四、五十万円で運用が、今のパソコンに落とし込みがされて、今の職員の方々みずから入力ができるという、安価で、また使い勝手のいいシステムですから、ぜひとも武雄バージョンの被災者支援システムの対応の具体的な取り組みを早急をお願いさせていただきます。

そういった中で、いろんなパソコンにもデータがあります。そのデータの集約がサーバーなわけですね。心臓部ですよ。きのう、おとといですか、ちょうどテレビを見たときに、沖

縄でサーバー基地という、ある企業が沖縄は地震が少ないということで、いろんなアイデアというか、企業があるわけですよ。沖縄に全部コンピューターのサーバーを、企業から自治体のサーバーを沖縄にぜひ持ってきてくださいと、責任を持って管理していきますよというふうな報道がありました。そういうことも、武雄市にもぜひ、適地じゃないかという部分で非常に興味を持って見てもおりましたので、サーバー管理に関しても適切な管理を市長ぜひともよろしくをお願いします。

もし、そのサーバーがいかれたときには、莫大な費用がまたかかるわけですね。また、立ち上げには相当な時間も費用も要するわけですから。また、最悪は市民の皆さんに一番迷惑がかかるという部分ですから、その辺のサーバー管理の考えがあれば、市長御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

沖縄のサーバー誘致を仕掛けた一人なんです、私。ちょうど10年前に沖縄振興シンポをしたときの私は責任者やったですもんね。そのときに、あの当時、IT企業という言葉はなかったんですが、10年前ですよ。サーバーをどうやって持ってくるかというので、あれ実は莫大な国の補助が入っているんですね。例えば、通信費はかからないとか、あるいは来た事業所については保税、税金がかからないとか、さまざまな特典が国のほうからついているんですね。それに県と当該市が後押しをしている。考えてみた場合に、今、クラウド化がどんどん進んでいます。その上で、これ佐賀県との協議がすごく必要になりますけれども、できれば今後サーバーってどんどんふえていくんですね。今——ちょっと長くなりますけど、1つのサーバーだけじゃだめで、それをカバーするサーバー、それをまたカバーするサーバー、サーバー天国にどうもなっていくんですね。もう大分気を取り直しましたよ。

それで、そういうことで、何を言いたいかというと、今まで、例えば、我々は企業とか工場を誘致するというスキームに一生懸命だった、あるいは人に付随していますよね。だけど、サーバーも来ると、これ人の管理はそんなに要らないんですが、固定資産税とか入ってくるわけですね。あるいはそこに地元に、例えば、そこにアクセスするためのさまざまなハードとかソフトとか必要になりますので、そういう意味でちょっとサーバー誘致の、どういうふうにすればサーバーが来てくれるかということも、ぜひやっぱり考えてみたいというふうに思っています。これをまだ全国の自治体で考えているところはないんですね。あっ、これユーストリームで流れているか。もうこれぐらいにさせていただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

被災者支援システムという関連の中で、ぜひともそのサーバー管理をとということで御提案もさせていただいたところですが、そういうふうな方向性で積極的な取り組みをぜひともお願いをしながら、一方で災害発生時の住民の避難場所についてちょっとお尋ねをさせていただきたいと思います。その中でも特に学校施設への防災機能の向上、整備についてお尋ねをさせていただきたいと思います。

避難場所の全国的な中で約6割が、校舎、体育館が6割ですよ、避難場所。あとは社会福祉施設が12%、それから、公民館等が8%というふうな被災地の施設がそういうような形で発表というか、状況が出ております。

先ほど申しました学校施設について、これは国立教育政策研究所、センターが発表したことですが、ちょっと読ませていただきますと、大規模地震等の災害に際して、学校施設が果たす役割は第一に児童・生徒や教職員の安全確保であり、地震に強い学校施設づくりが急務の課題となっています。そういった中で、阪神・淡路大震災や新潟中越地震等の大規模地震に際し、学校施設が多く地域の住民を受け入れたことは広く知られているところでございます。一方、学校施設は教育施設として設計され、避難所としての使用に配慮していなかったため、使用に際しては数々な不都合や不便性が生じた事実もある。そういった中で、地域防災や学校施設づくりに携わる関係者は、これらの貴重な体験を今後の施設に生かしていくことが重要ですよというふうなセンターからの意見が出ております。

武雄市内の学校、特に学校、体育館施設、もう耐震化が計画的に進んでおりますね。予算もつけていただいて。そういった中で、一昨日だったですか、7番議員からも武雄小学校の体育館の移設場所、建設場所の問題とか、武雄中学校をもう少し広くしたらいいんじゃないかというふうな質問も出ておりましたけれども、私の提言は、ぜひ今回、新築計画があるときに、この武雄小学校の体育館、それから武雄中学校の体育館に防災機能を備えた施設を整備できないかということで、武雄町は人口も多く、非常に両体育館の必要性といいますか、備えていただければ、市民の皆様の、また、近くの町民の方々の安心・安全につながると思いますけれども、その辺の学校施設への、特に体育館への防災設備の充実という部分の中で、ぜひとも早急な整備をお願いしたいと思いますけれども、御見解をよろしく願います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

今、議員が言われましたように、耐震化の事業は年次計画を持って、莫大な予算を必要として進めさせていただいています。体育館について防災上いろんな施設、機能をとということでありますけれども、まだ今、私どもが計画しておりますのは、体育館の場合には地域連携施設ということで、特に武雄小学校等については、ミーティングルームとか、トイレとか、

そういうものがございませんでしたので、当然そこら辺は考慮していかなくてはならないだろうというふうに思っています。そのほかに国がいろいろ防災機能をという形で言っているのは、もうちょっと広い会議室とか、あるいは蓄電設備とか、そういうもの等もあるかと思えますけれども、設計に間に合う分については財政当局、市長と協議をしながら進めさせていただきたいと思えますけれども、今すぐというのはなかなか難しいかもわかりませんが、研究をさせていただきたいというふうに思っています。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

財政が厳しい中で、財源も調べさせていただきました。国の財政支援制度にということで、文科省、それから国交省、さらには消防庁あたりのいろんな支援制度があるわけですね。そういった部分で100%補助ではありませんけれども、ぜひともその辺の支援制度もいろんな分野で使われるような制度がありますから、この辺はよく調べていただいて、使われる制度であれば、大いに国から制度を引っ張っていただいて、ぜひとも備えつけをお願いしたいというふうな形で、要は今回の被災地でもテレビで報道をされている部分に関しても、もうほとんどが学校施設ですね。体育館の避難所ですよ。そういった状況の中で、公民館もいでしょうけれども、やっぱり何百人となったときには、どうしても体育館等の学校施設の利用という部分の中の対応も必要になってくるわけですから、その辺はぜひともそういうふうなちょっとした会議室とかという、学校全体で見たときにはいろんな施設もあるかと思えますけれども、ぜひとも体育館の中にそういうふうな食料品の備蓄をする場所とか、いろんな部分での検討もできるかと思えます。

それとか、予算的にというか、補助金制度でもプールの水を飲料水にという部分の中で、どこやったですか、被災地の、水がなかったときにプールを浄化して、その水を飲み水にしていたということも報道がなされておりました。そういった感じで、今後、いろんな部分の中で検討の余地があるかと思えますから、ぜひともその辺は調査研究していただいて、設備を後からというぎなかなかできないわけですよ、そのときにしていかないと。ちょうどいいといいますか、それは当然、若木とかいろんな体育館、町内、体育館あちこちありますけれども、今回は武雄小学校と武雄中学校が新築という中で御提案をしていきたいと思えますので、ぜひとも調査、研究をお願いして対応していただくことを切にお願いを申し上げます。

それと、災害時の協定について、市長、ちょっと確認をというか、これも御提案ですがけれども、5月25日、武雄市と国と災害協定ということで、復興支援の情報提供もということで国交省と締結をされましたですね。非常にいいことだと思います。また、今回、近隣の自治体、長崎市と、それから、大阪等も自治体の協力体制というか、そういうような形でもされ

ております。

それと、平成18年の8月は市の建設業協会とも協力協定を結んでいただいております。それとか、管工事組合とかという部分でも協力関係をされて締結をしていただいておりますけれども、今、全国的に地方版のCSRといえますか、企業の社会的責任の強力的な、積極的な取り組みが非常に進んでいます。そういった中で、先ほど申しましたように、いろんな国交省、あるいはそういうふうな建設業協会というふうな取り組みとの締結もされておりますけれども、例えば、電気は九電、あるいはそういうふうなテレビ情報あたりは今議会放映もされておりますケーブルワン社とですね、民間との支援協力体制といえますか、その辺も今後積極的に取り組んでいただければと。また、先ほど言いました企業も社会的責任をどう果たしていくかという使命が今非常に問われています。そういった感じで、ぜひそういうふうな民間企業ともぜひともその辺の提携、例えば、今、武雄市の民間でもすばらしい企業が、きょうの新聞でしたか、中山鉄工所が用水路で水力発電ということで報道もなされておりました。すばらしい企業ですよ。こういうふうな企業が武雄市には幾つもあります。そういった企業ともこういうふうな支援体制の連携をとっていただければ、災害時のときの対応、あるいは平時のときにいろんな協力をしていただけるものと思いますけれども、市長、その辺との、民間との支援協定をぜひ積極的に進めていただきたいという思いでいっぱいですが、市長の御見解をお尋ねさせていただきます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに中山鉄工の小規模の水力の発電についてすばらしいと思いますね。あとWi-Fi（ワイファイ）をみずからやっておられたりと、すばらしいと思います。ただ、災害のときに、例えば、民間の皆さんたちがどういうふうにするかというのは個別な問題があるんですよ。ですので、1回9月に訓練を行うということは、さきの山口等議員のときにお答えをいたしましたけれども、そのときにぜひ民間の企業の方々も出てこられて、いや、これちょっと行政にこれを依存すると、依存し過ぎると、いや、これちょっと手薄になるとかというのをぜひ民間の皆さんたちに見てもらって、その部分の足りない部分は、例えば、こういうふうに協定して応援するよというように持っていきたいなというふうに思っておりますので、今度の9月の防災計画が一つのきっかけづくりにしていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

質問の途中でありますけれども、議事の都合上、午後1時20分まで休憩いたします。

休	憩	12時
再	開	13時20分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

冒頭、災害防災はもう行政だけでは限界がありますよと、あとは市民力、地域力、企業力ですね、民間力、それから、議員の情報発信力というふうな話をさせていただいたところがあります。

そういった中で、民間力、民間の活力といった部分の中で、中山鉄工さんの話とか、いろんな部分の話をさせていただいたところがございますので、ぜひともそういうふうな民間の力を活用させていただいて、そういうふうな災害の提携もしていただきたいと思います。

ちょっと話は飛びますがけれども、福島原発の中で50メートルのポンプ車が水を注入しようとする皆さんテレビでよく見られるかと思いますが、あれは民間のポンプ車ですよ。民間のポンプ車の手配を我が公明党の国会議員の遠山議員が手配したと。そういうふうな流れが当然必要な部分ですから、それが議員の発信力といいますか、いろんなところで訴えていくというのが大事な部分だと思います。

そういった中で、県、あるいはいろんなところの他の市町村等の連携も大事だと思いますけれども、そういうふうな国とのパイプというふうな部分も大事だと思いますけれども、その辺の市長の御見解というか、その辺の対応に関してどのような形で思っておられるか、そういうふうな実績も踏まえて御答弁をいただければと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

そうなんですよね。やっぱり県とか市だけでは単独ではできない部分があって、今、私、ブッシュさんの回顧録を読んでいるんですね。現職のときはもうめっちゃくちゃに言われていますけど、読みよおぎやっぱり違うとですよ。ブッシュ前大統領もやっぱり連邦政府ですよ、いわゆる国と州と、こういう基礎自治体の連携が一番大事だというふうに書いてあって、だから、それはもう古今東西そうだと思いますしね。お名前が出ましたけど、あえて言いますが、遠山さんとは僕は同い年というのもあって、沖縄時代からずっと仕事をしていますので、そういう意味で言うと、ぜひまたお力添えをお願いしたいというふうに思っていますので、早く与党になってください。

**○議長（牟田勝浩君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

そういうふうないろんな多方面でのパイプが今後は必要になってくるかと思いますが、ぜひともよろしくお力を申し上げながら、防災対策というふうな災害対策の面で災害弱者

と言われます高齢者、独居老人、それから、障がいのある方々などの対応について、どういふふうな対応をされているか、ちょっと確認をさせていただきたいところですが、こゝういふふうな災害弱者と言われる高齢者、今申し上げましたですね、障がい者の方々をどのよゝうな方法で、また、どのよゝうに行政としては掌握をされているのか、一番大事な点ですから、ちょっと確認をまずさせていただきたいと思ひます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

御指摘いただきました高齢者とか、障がいを持たれた方々をいかにして災害等から守っていくのかということで、私どもは要援護者のネットワーク台帳いふのをつくっております。これは緊急時とか、災害時において避難誘導などの支援を必要とする方をきちんと地域で支援をしていこういふことで考えておひまして、御紹介をいたしますと、要援護者ネットワークにつきましては、住所とか氏名、それから世帯の構成等々ありまして、緊急時の連絡先とか、それから、その方を支援していただく方をきちんと氏名等を書くいふことでいたしておひまして、その方の、例へば、どのよゝうな病気を持っていてらっしゃって、どこにかかっているのか、あるいは薬はどのよゝうなものを飲んでらっしゃるのかと、そういふところまできちんと記載をした台帳をつくっているところでございます。

さらには、自宅のどのよゝうなところで休まれているのか、そういふところまできちんと把握をした上で台帳をつくっているいふことでござひまして、現在のところ、市内では2,874世帯を登録しているいふ状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと補足をしたと思ひます。

ある民生委員の方が、いろんな台帳のあつてもう困るいふことで、台帳天国と言われたですもんね。それで、例へば要援護者の台帳を自分たちは、例へば新米の民生委員さんでそれを知らなかつたと、自分たちが書かせられるいふのがいっぱいあつて、もう何ぼどがすすぎよかかわからんいふのがツイッターに書き込まれたわけですね。その状況を私はよくわかりませんでしたので、古賀くらし部長と話をしたら、やっぱり実態がもう乱立しottaわけですね、こゝういふ台帳みたいなのが。

それで、今回、特に民生委員の皆様方にはこの要援護者の台帳をきちんとお渡しをする、もちろん物すごいプライバシーも入つとつけんですね、そこはちゃんと守秘義務いふのは課しますけれども、そういふ意味で、もう一本化しようとして、とにかく。そこで足りない部分は民生委員の人たちがそこに書き込んでいただくと、回ったりしてですね。そういふふう

していこうというふうにして、事実、市民の声を受けて、市民が不安になるとかという声も聞かれましたけど。市民の安全・安心の確保のためにそういうふうにしております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともそういうふうな情報の一元化をお願いしておきます。

ただ、そこでだれが、そしたら、管理、保管をしておくかと。それは当然民生委員ですね。各区の区長さんというところまでだと思えますけれども、私からもう一步踏み込んで、公民館で管理をぜひすべきじゃないか。例えば、公民館、例えば、若木町の公民館ですね。消防本部も一緒にあるわけですよ。もし何かあったときに、すぐ民生委員、区長さんに連携がとれればいいわけですが、なかなか連携がとれんやっったときに、だれが掌握できるのかと。要するに地域では公民館が災害拠点になるわけですから、やっぱりどうしても公民館での情報の一元化というのをぜひともお願いしたい。例えば、公民館の実情といえ、転入者、だれが転入してこられて、だれが出られたのか、公民館では情報がわからないというわけですよ。各区長さんはわかっているけれども、その集大成といいますか、その一元管理が公民館ではなされていないということが実態ですから。災害の支援者リストあたりも、もしよければ公民館で一元管理をしていただければ。そこに個人情報保護法というふうな部分にひっかかる部分がありますけれども、個人情報保護法は、災害時はこの限りではないとあるわけですよ。それと、個人情報保護条例では、目的外利用として認められている人の生命、身体、健康、または財産を守るため、緊急かつやむを得ないと認められるときに該当するものとして、各自治体で判断し、実施するものとある。ちなみに総務省の見解は、自治体が判断するものであれば、個人情報保護法との関連には問題はないということであらうと思います。

そういった形でぜひとも、極端に言えば、区一帯が災害に遭ったときには、だれがその情報、それは当然、市があるからかもわかりませんが、要は現場の町で管理をしていくべきだと思いますけれども、その辺の公民館での一元管理まで提案をさせていただきたいと思えますけれども、そのハードルはそういうふうな個人情報保護法という部分ですが、災害時ではこの限りではないというふうな部分も明記されておりますから、ぜひともそういうような形で取り組みができないものか、市長の御見解を確認させていただきます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私のところに要援護者ネットワーク台帳の本物があります。もちろん私のところに来てい

ますので、これ名前とかは消してあるわけですね。電話番号も消してあります。この中に、こういったことが書いてあるんですよ。かかりつけ医療機関、内科医院、それで、治療中疾患でペースメーカー植え込み、高血圧。避難時に必要とする支援の内容、心肺が悪いので急いで歩くことができないという、ここまで書いてあるわけですね。これを果たして個人情報保護法の関係でこれを他者の他者に渡すことが本当に市民感情として成り立ち得るか、私は違うと思いますよ。ですので、私は議員のおっしゃることはよくわかります。ですが、この要援護者ネットワークの台帳に関しては、やはり私は民生委員のところとめておかんぎ、下手に流れると、もちろん罰則規定ありますよ。あるばってん、言ってしまったのをのみ込まれんのと一緒に、これはやっぱり厳しいと思いますね。

ですので、私はここまでじゃなくて、例えば、消防団の皆様方とか、公民館の職員もおりますので、できるというのは、例えば、あそこに独居の方がいらっしゃるということ、そして、とても一人では歩いていけないというのを、その部分の共有というのは必要と思うんですよ。ですので、おっしゃっている中身は一緒かもしれませんが、私は個人情報の保護というのはやっぱり極限まで守らなきゃいかんと思うわけですね。それが市民の安全・安心の不安感の払拭につながるとしますので、この台帳の件に関しては、ちょっと私たちの従来の解釈のままさせていただければありがたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

市長、「両刃の剣」ということわざを知っていらっしゃいますか。

〔市長「はい」〕

要するに必要だけれども必要悪というか、大切な部分だけれども個人情報保護法、プライバシーの部分にとらえると非常に問題があると。しかし、現場としては実際必要という部分、今から必要ないろんな議論が大事な部分だと思うんですね、その辺に関しては。非常にそういうふうな保護法からのとれば、そこまでいいのかという問題でしょうけれども、いざ、現場としては、いざ、命を守るとなったときには、やっぱりその場所をだれかが知っておかんことには。その辺は大いなる議論の場だと思いますから、その辺は今後徹底して議論をしていきたいと思っておりますけれども、その辺をもう一回御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、やっぱりその議論は必要だと思いますね。さっき質問。ただ、私はもうだれかとは言いませんよ、だけど、私がやっていることが市民の不安感をあおるとかというふうに言われたら、私もう怖くて言えませんよ。ですので、これは議論にゆだねたいとは思いますが

ども、ただやっぱり私は返す返す思うのは、きちんと情報の伝達がなし得るということであったときに、やっぱりプライバシーの入っているのは必要最小限にすべきと思うとですよ。

ですので、そういう意味で言えば、私は、理想論は区長さんのところがきちんとあって、区長さんがお持ちで、あるいは民生委員は要援護台帳を持ちます、守秘義務を課して持ちます。そこであとは公民館であるとか消防団というのは、それは町町によって、地区地区によって違うかもしれませんが、ネットワークというのをきちんとすることが大事なんじゃないかなというふうに思うわけですね。

これは公民館にあったにしても、公民館にアクセスできる場合のあるわけですよ。だから、それは言っていることは同じかもしれないですよ。末藤副団長もいらっしゃいますけれども。だから、消防団にいち早くそういう情報が行くとか、そういうことも考える必要があるだろう。ここに今、山崎最高情報アドバイザーも入っていただいていますけれども、いかにICTを使って、きちんと行くかということも含めて、今、話し合いをきちんと進めていこうと思っております。貴重なお話ありがたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

ぜひともよろしくお願いを申し上げておきます。本当に一番大事な部分ですから。どっちをとるかという、非常に両天秤にかけられない部分ですから、よろしくお願いを申し上げて、今、各地区で自主防災組織、あるいは各区で防災訓練が実施をされております。若木町の、私の地元の下村でも自主防災組織をつくっております。また、防災訓練も実施をさせていただいたところでございます。

そういった中で、さっきの一元化という問題ではないですけれども、若木町では小単位での自主防災組織、防災訓練を実施しています、実際。ただ、下村全体が災害に遭ったときには、だれが伝達、だれがそういうふうな防災組織の長としての対応をしていただくかということ、非常に今、町単位、区単位でしていますものですから、それを広域連携でぜひ地域に合った防災組織づくりといいますか、防災訓練を今後していくべきだというふうな形でいろんな各町でも実施されておりますし、防災訓練の総括といいますか、いろんな意見も、こうしたほうがいいんじゃないかとか、もう少し指示系統というか、要するに役所、本部から連絡があって、どうかどうかということで、現場は連絡待ちでは対応できない部分があるわけですね、実際あったときには、どういうふうな形が一番最優先していくのかどうかという部分の地域に合った防災組織づくりというふうな部分が大事かと思っておりますけれども、そういうふうなマニュアル的じゃないですけれども、各町、各区の実情に応じた組織づくりが今後望まれる自主防災組織、防災訓練のあり方ではないかと判断しますけれども、その辺の考えについて御見解をお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

同感ですね。行政ができることというのはやっぱり必要最小限の、例えば、プラットホームをつくと、あとはどういうふうに形を変えるかとか、運用するかというのは、例えば、下村区だったら下村区の運用の仕方、私の出身の川上だったら川上の仕方というふうになるわけですよ。ですので、その型をつくることまで行政の役割で、あとはやっぱり市民一人一人が、住民の方一人一人がどういうふうに自分の身は自分で守るか、そして、弱者、弱い方々の立場の皆さんたちをどういうふうに自分の身と一緒に守るかということで、絶えず議論と行動の場が必要であるというふうに認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

現場の目線で広域連携がいいのかどうか、その辺もある程度担当部署に関しては、また再検討をしていただいて、区に投げかけていただければと思いますので、よろしく願いを申し上げながら、関連して、命を守るというふうな部分の中で、支援3点セットというような形で私は呼ばせていただきたいと思いますが、武雄市が今活用しています緊急通報システムですね、これはもう現に活用していただいております。それと、さっきお話がありました要援護者支援リストも民生委員の方々等でリストアップしていただいております。あわせて救急医療情報キットという取り組みがなされている町があります。近くで言えば、大町町が情報キットというふうな形で取り組みをされております。ちょっと中身を紹介させていただくと、大町は命のバトン事業ということで65歳以上のひとり暮らしの高齢の方等を対象に、命のバトンの実施をしています。要はちょっと命のバトンですから、お借りすることはできなかったんですけども、イメージ的には、バトンですから、こういうふうな命のバトンというふうな部分ですね。この中にいろんな情報を入れるわけですよ。かかりつけ医、どこにかかっているのかどうか、どういう薬を持って飲んでおられるのかどうか、緊急連絡先はどなたにしているのかどうか、非常にこの辺も先ほどの議論、両刃の剣という部分の中で個人情報どこまで果たしてですね、というような部分の議論になってくるかと思いますが、特にひとり暮らしの方々あたりがもし倒れられて、駆けつけたときに、どこの病院にかかっているのかどうか、どなたに連絡しているのかどうかという部分の中での資料を、それは当然、同意のもとですけれども、こういうふうな命のバトンの中に入れていただいて、冷蔵庫の中に入れておくというふうな取り決めをしていただければ、いざというときの対応ができるんじゃないかという思いの中で提案をさせていただいたところでございます。

先ほど申しましたように、救急通報システムは今稼働をしております。また、要援護者リストも作成をされている中で、最後の3点セットの緊急情報キットの取り組みまで、もしよければしていただければ、いろんな分野の中で行政としての備え、災害に対する備え、高齢者を守る、障がい者を守るというふうな部分の中での対応が、体制づくりができるかと思えますけれども、この取り組みについて御見解をお尋ねさせていただきます。

**○議長（牟田勝浩君）**

古賀くらし部長

**○古賀くらし部長〔登壇〕**

先ほど申し上げましたとおり、当市では災害時の要援護者のネットワーク台帳ということで、今の御紹介されました大町町で取り組みをされている事業の中身についてはほとんど網羅しているという状況でございますので、台帳類は幾らか現在あるというのは承知しておりますが、それはできれば一括で、一元で管理をしたいというふうに考えておりますし、もう1つは、高齢者の方々、ひとり暮らしの方々、こういった方々を見守るという制度につきましては、例えば、愛の一声運動でありますとか、そういったものもやっておりますので、これから見守り事業も強化をしていくという中で、できれば台帳は、先ほど申し上げましたとおり、ネットワーク台帳で対処をさせていただきたいというふうに現在のところ考えております。

以上です。

**○議長（牟田勝浩君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

台帳で管理することもいいでしょうけれども、どこにだれがという部分の中で、実際、台帳だけつくっても、いざとなったときにどういうふうな形でそれが、せっかくつくって、それが活用できない——活用という言い方はいかなものかと思えますけれども、利用できないければ、せっかくのリストも無になってしまうわけですから、その辺ももう一度どういうふうな形が一番現場にとって、市民の皆さんにとって一番いいそういうふうな支援になるのかどうか、もう一度御検討を提起させていただいて、災害防災については質問をとどめさせていただいて、次の住みやすいまちづくりの提案について話をさせていただきたいと思えます。

私からの提案は、小中学校でのエコリンピックをぜひ取り上げを、市長、どうでしょうかという御提案ですね。以前、やっぱりどうしてもまちづくりには子どもたちの意見が必要ですよと、やっぱり聞く場を設けたらどうですかということで子ども議会を提案させていただいて、2回、3回、子ども議会を開催していただいて、いろんな意見が出ております。また、今回、災害地においても、まちの復興計画、大人だけではいけないということで子どもたちも一緒に入れた復興計画を今つくろうという機運に今なっているようでございます。非常に

大事な部分ですね。

そういった中で、以前、私からのがん予防に関しても日本一標榜、また、がん検診率向上課までの設置をしていただきながら、非常に先進的な取り組みをしていただいているところですが、子宮頸がんワクチンについても、前々回質問もさせていただいておりましたけれども、一時、ワクチンの接種が集中して不足しているというふうな情報も流れておりました。ただ、そういった状況の中で、今ワクチンの接種状況がどういうふうな形で進んでいるのかどうか、また、接種状況が皆さんに行き渡って計画的な形で全部対象者は第1回目の受診をされたのかどうか。ちょっと確認をさせていただきながら、まだされていない方もいらっしゃるれば、このテレビ等を通じて、ぜひとも受診をということ呼びかけもしていただきたいし、また、今年度予算でも40歳から60歳までの5歳刻みで無料検診のがんの受診も予算化していただいておりますから、その辺もあわせて御答弁をいただければと思います。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、22年度の事業として子宮頸がんワクチンにつきましては、中学1年生から高校1年生までを対象にということを進めてきたわけですが、2月までは順調に進んできたわけです。しかしながら、3月に入りまして、ワクチンが足りないという状況になりましたので、しばらく休止の状態というふうに実はなっております。6月に入りまして、ワクチンが若干確保できたということになりましたので、実は22年度の高校1年生につきまして、まだ第1回目の接種ができていない方がいらっしゃいましたので、もう高校2年生に実はなっているわけですが、まだ大丈夫でございますので、この方々をまず手始めに6月10日から第1回目の接種を始めたという状況でございます。現在、高校2年生につきましては、対象者が296名いらっしゃいますけれども、現在までに183名、61.8%の方々が接種をされているという状況でございます。当初の見込みですが、これは国のほうでは大体対象者の45%程度が接種されるんじゃないかということで考えておりましたので、接種割合としては非常に高いんじゃないかというふうに思っております。ただ、先ほど申し上げましたとおり、ワクチンがまだ足りていないという状況でございますので、現在の中学2年生から高校1年生までにつきましては、30%の半ばというところで推移をしている状況でございます。

次に、がん検診のほうですが、23年度の新規事業といたしまして、無料クーポン事業というのを新たに始めさせていただきました。これは肺がん、胃がん、大腸がん、それから、男性の方ですが、前立腺がんの検診ということで、節目検診で始めさせてもらったわけですが、がん検診につきましては6月1日の東川登町の検診からまず手始めに始めまして、本日は北方の保健センターで検診をやっているという状況でございます。なお、

本年は初めて6月12日ですけれども、武雄町の文化会館において日曜日の検診も入れたということで、非常にそのときは検診をされる方が多かったということをごさいます、人数的には6月12日に148名の方々が来られたということをごさいます。

ここで18日の土曜日までに受けられた方々の人数をちょっと申し上げますと、肺がんで190名、胃がんで155名、大腸がんで157名、それから、最後ですが、前立腺がんの検診で68名の方々が受けられておまして、パーセンテージで申し上げますと、大体5%の半ばぐらいという状況になっておまして、これからさらに検診を進めていきたいというふうにごさいます。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

思ったより受診というか、接種率が低いような感じですね。中学1年生から高校1年生まで、今の数字でいくと、3割ですね。10人のうち3人しかまだ接種していないと。あるいは高校2年生までの部分に関しては、接種が不足していたものですから、若干延長というような部分ですけれども、やっぱりお母さん方にも周知徹底という部分が必要かと思っております、その辺は大いに統計だけで、やっぱりがん検診率向上課もあるわけですから、いかに受けさせていくかという努力の部分をお示しをしていただければなというふうな部分で思っております。

私も前立腺がんを1回受けました。数値は高くなくて一安心ですけれども、1回受ければ、安心してまた次もというような思いなものですから、まず、1回の足を踏み出す一歩をどういうふうなきっかけづくりで行政としてお手伝いというか、仕向けさせるような具体的な啓発が一番大事な部分ですよ。どうしてもやっぱり全国的、あるいは世界的にもがんの受診率が非常に悪いというような部分で、ただ、子宮頸がんあたりは20、21、22年というふうな部分の中で啓発をしていただいた部分で、14%、21%、23%というような形で子宮頸がん、それから、あわせて乳がんも非常に上昇はしております。ただ、それをやっぱり5割、6割というような部分が一番大事な部分ですから、特に子宮頸がんあたりは全対象者に全部接種をしていただきたいという私の思いが、唯一予防できるがんですから、子宮頸がんはですね、もし、ケーブルワンを見ていただいている御父兄の方々には接種されていない子どもさんがいらっしゃれば、ぜひともこの機会を通じて接種をしていただければと思っておりますので、ぜひともその辺の今後の啓発運動というか、啓発に関して何か具体的な計画があられば、ちょっと御答弁をいただければと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

## ○古賀くらし部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、がんの検診率を上げるのが一番の早道というふうに思っておりますので、昨年の9月にがん検診率の向上課も設けながら、検診を進めてきたわけですが、残念ながらといいますか、22年度についてはそう検診率が向上したという結果は見られておりません。したがって、本年度、無料クーポン事業でありますとか、中川先生の3回目の講演会でありますとか、そういったものも取り入れているという状況、さらには、先ほども申し上げましたけれども、日曜日の検診も始めたとか、いろいろございますけれども、集団健診だけではなくて、例えば、婦人検診につきましては個別検診も入れると、こういった取り組みも進めておりますので、皆様方により受けやすい環境をこれからもつくっていくというのが我々の仕事かなというふうに思っております。

以上です。

## ○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

## ○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういったことで、今回、中川先生も講師に呼んでいただいて、がん予防、撲滅に対しての講演を山内の改善センターでしていただくものと思っております。私も参加して、やっぱり子どものときにがんの恐ろしさといいますか、がん予防に対する知識を子どもたちのときから持たせるということがいかに大事かという部分を一緒に学んだところですから、ぜひともよろしくお願いを申し上げておきたいと思っております。

そういった中で、やっぱり子どものときに学び、知るといのは非常に大事な部分ですね。子どものときに学んだことは非常に記憶として残っているというか、そういうような部分があります。

そういった形で、教育長、1足す1は2という教育も大事でしょうけれども、生きた教育というような部分も非常に大事な部分ですね。そういった中で、先週の15日に若木小学校で三谷先生に来ていただいて、非常に考える力をどう子どもたちに植えつけていくかという、市長も一緒やったですね、教育長も一緒に、非常にすばらしい特別授業ですよ。ケーブルワゴンでも今放映があっているかと思えますけど、ぜひとも見ていただきたいと思っておりますけれども、物の考え方、なぜこのコップが丸いのかということですね。それで、なぜ上が大きくて下が小さいのかという、由来というか、なぜ丸いのか、なぜ人間の手はというようないろんな興味深い教を先生がして、非常に大人も感心したところでございますけれども。

そういうような、さっき申し上げた1足す2という教育も必要ですけれども、考えさせる教育というのがいかに身につくというか、大事な部分だと思いますけれども、そういうような部分の中で、もういろんなところでそういうふうな機会を取り組んでいただきたいと思います、また、呼んでいただいて、もう子どもたちにそういうような知識を与えていただければ、非常

に子どもたちも生き生きしているわけですよ、目が。きらきらした目で授業のあつという間の1時間の授業でございましたけれども、ぜひともその辺の企画を今後とも大いにさせていただきたいということを熱望する一人でございますけれども、市長、御見解をよろしく願いたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これも教育委員会の専権なんで、私がもうどうこう言うと、また、いろいろ言われますから、まあ言いますけど。あれなんですね、三谷さんの話で僕が一番感銘を受けたのは、さっきコップが出てきましたよね、紙コップだったんですかね、何で紙コップかということ、あれ100年前にアメリカで疫病がはやったということで、あれ回し飲みしていたらしいんですよ、コップを。それで、やっぱり衛生で、なおかつみんなが飲めるといったら、もうペーパーしか、紙しかないわけですね。それで、紙でつくるといことと、もう1つが、上がくるって回るとるですよ。あれはなぜかということ、強度を保つためなんですね。それと、何で底上げになっておるかといったら、重ねやすいため。それで、何であれが円柱になっているかというと、人間の手がもともと挟むというふうになって、全部結びついているわけですね。歴史と結んで、手の構造と結んで、もう1つは、もう物理学とも結んでいるわけですね。三谷先生がおっしゃったのは、考えることは楽しいって、何でということ突きとめるのは楽しい。しかも、机に座っとっちゃだめですもんね。だから、あのときには若木小学校の多目的室であったのが、円柱を探せというのがあったんですよ、時間3分ぐらいでしたかね。円柱を。円柱といったら、普通、ここで言えば、時計は四角か、コップとかそうですよね、（コップを示す）円柱の一つですよ。それで、その中で一つ、子どもはおもしろかったですよ。お金、硬貨も円柱ですって。しかも、硬貨の中の輪になっている部分のあるでしょう、50円とか、山口良広さんもいっぱい持っとんさあて思いますけど、それも円柱の一つというふうにして、子どもの発想というのは、我々大人とはちょっとやっぱりもう全然違うというか、それを三谷先生は褒めんさあわけですね。褒めれば、やっぱり伸びていくですもんね。やっぱりけなされると、伸びらんですね。

ですので、そういうことで、ぜひ三谷先生においては、8月の中旬に自分の体があくそうですので、また呼びたいと思います。呼んで、これは学校の先生に特に今度聞いてもらおうと思っているんですね。それを教材とか全部使っていいですよというふうに言われとつけんが、学校の先生にきちんとこういうふうに教授してもらって、あとなるべく多くの、「ダブルヘッダー、オーケーですか」と言ったら、「オーケーです」と言われたからですよ、「トリプルヘッダーもオーケーですか」と言ったら、「オーケーです」と言いんさつたけん、なるべく子どもたちにも聞かせたいと。だから、2つ、学校の先生向けと子どもたち向けとい

うふうにしていきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういう機会をぜひ子どもたちにも与えていただきたいと思います。子どもの発想という部分の中で、本来の質問に入ります。エコ、環境問題もぜひとも子どもの目線で取り組めば、非常にいいアイデアが出るんじゃないかというふうな形で思っております。

今、子どもたちは「池上彰の学べるニュース」を見ているわけですから、もう全然我々の子どもの時代という言い方はおかしいでしょう、全然もうレベルが違うといいますか、発想がもう違いますね。そういった形でぜひとも、さっきエコリンピックを子ども議会じゃないでしょうけれども、やっぱり子どもたちが考えた分に関しては、評価をしてやるというような部分も非常に大事な部分ですよ、教育においては。そういうふうな部分でぜひともそういうふうなエコリンピック的な部分の中で啓発を子どもたちの目線でさせていく、非常に今からは環境問題には関心を持たせる必要な時期だと思っておりますから、その辺に対して御見解をいかなものかと思っておりますけれども、御答弁いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

エコ活動が言われました背景は、1つは、温暖化防止があります。それから、もう1つは、エネルギー消費の軽減ということ。これまでは温暖化防止が重点的に言われてのエコだったと思うんですが、ここに来まして、大震災以降、エネルギー消費をいかにということでのエコという両面が出てきたんじゃないかというふうに思っております。

その意味で、4月からスクール・エコ・チャレンジと銘打ちまして、電気、水道、コピー量、工事中の武雄中学校を除きまして、各学校で積極的に取り組んでいただいております。

エコリンピックという表彰等も考えられるわけですが、これまでもかなり頑張ってきた学校があります。それから、学校の校舎の状況等もありますので、1年間取り組んでみてから、競争の部分というのは考えていきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ちょっと私も提案という部分で質問させていただきましたけれども、要はやっぱり子どものときにそういうふうな機会を、学ばせる機会をこういうふうな形でしてやるのも一つの教育の一環だというふうな形で思ったものですから、ちょっと提案をさせていただいたところでございます。また、次年度でも結構ですから、いろんなところで検討を重ねていただき

いと思います。

そういった中で、ちょっともう少し話をさせていただくと、先日、山口裕子議員からも話が出ておりました。太陽光設置には補助金を武雄市も出しております。佐賀市が今回、LEDの電球に関しても補助金を出すということで、非常に佐賀も取り組みがされております。そういった中で、武雄市も何とか新たなそういうふうな補助体制というか、補助事業ができないかというような部分で、地球熱設置の話も私も質問の中に入れていただき、市長、事業名まで私考えておりました。武雄エコアースクリーン事業というふうな部分で、地球熱ですから、アースというふうな部分で、ぜひ地球エコアースクリーン事業をもし取り組みをどうですかという問いかけをして質問の事項に上げておりましたけれども、これは来年の1月から実施をということも答弁にあっていましたので、いま一度その辺を具体的に1月からの実施の方向で今進んでいるのかどうか、ちょっとそういうふうなネーミングもあわせて、地球熱の利用というような部分でお尋ねをしていきたいと思います。いかがでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私が申し上げたのは、1月から地熱活用ですよ、ということを申し上げまして、地熱を活用してくださる御家庭、あるいは事業者に対して、その政策誘導のための補助金をぜひ交付したいということは思いました。その中で、議員からあったように、いろんな取り組みをするのはいいんですけど、やっぱり主婦の方に聞いてみたら、多聞第一ですね。やっぱりエコはしても、自分の家計にどう響いてくるのかなかなかわからんと、やっぱり。ね、上田議員ね。うなずきよんさばってん、そうなんですよ。ですので、今私が非常に、これ参考に言っているのかわからないんですが、東京に出張していたときに、NHKの最後のところというのは、7時半のところに、夕方——失礼、朝のニュースです。朝7時のニュースを見よったときに、7時半ぐらいになったらパネルの出てくっですもんね。パネルの出てきて、きょうの電力予想とかといって出てきて、今——いや、もう九電もしよんさあですよ。多分パクってしよんさあですけど、そのとき見たときに、きょうの電力はこれだけかかって、実際供給はこれだけできますと。ですが、2時ぐらいにひよつとすると、物すごく電力が不足する可能性があるから、2時を目途に節電をお願いしますというとのわかりやすく出てくるですもんね。電池の絵で、ここまでできますとか、できませんとかというのがですね。

だから、そういうふうにして、ぜひ我々が進めるときは、例えば、こういう節電が、電気料金でこれだけ安くなるとか、そういうわかりやすい、あるいはこれをしたらCO<sub>2</sub>がこれだけ削減できますとか、木10本分ぐらいに相当しますとかということをわかりやすく広報する必要があるだろうと思っています。ですので、地熱活用についても、これだけ家計が助かって、CO<sub>2</sub>の削減に寄与しますということもあわせてちゃんと広報をしたいと、このよう

に思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともよろしく願いをしておきます。家庭で一番多く使うのがエアコンとか冷蔵庫ですね、それとか、照明器具、テレビというような部分が大半の電気の占める割合だと思いますから、その辺を具体的にどういうふうな形で節電効果が出るのかどうか、また、実際どういうふうな形で出たのかどうか、やっぱり目に見えてというような形が一番大事な部分だと思いますから、ぜひともよろしく願いをしておきたいと思います。

何か、よろしく願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり全員が見ておられない、広報でも当然、市報でもやりますけれども、やっぱりホームページの果たす役割はやっぱり大きいんですね。幸いにして、私もブログは今1日2万人の方がごらんになられています。1カ月で60万人ごらんになられていますので、ツイッターも、フェイスブックもいろいろ含めると、恐らくもう多分一月で100万人の方が私の中身があるのかどうかは別にして、内容は見ておられますので、そういう思った以上に、今スマートフォンでもごらんになっていますので、結構見られていると。そういう意味からすると、今ホームページを、これ詳細の説明は省きますけれども、7月じゅうにフェイスブックに一本化します。皆さん、もちろん今までどおり見てもらえますけど、ここはいろんな意見が言いやすいんですね、フェイスブックになると。それに加えて、私がやろうと思っているのは、今、被災者支援を前面に出していますけど、もうそろそろ全国いろんなところでやられています。我々もやりますけれど、ここをエコのページに、1面と切りかえようと思っていて、先ほど申し上げたように、これだけのことをやれば、例えば、これだけ節約できるとか、これだけCO<sub>2</sub>の削減に寄与できるというふうに、一番表画面を切りかえたいというふうに思っております。幸いにして節電で呼びかけた残業禁止令、佐賀新聞に大きく出て、非常な反響を呼んでおりますけれども、その趣旨も含めて、そこにきちんと書き込んでいきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

その件に関しては次の質問にという御提案をしたかったですけれども、答弁をいただき、ありがとうございます。私もよくホームページを開く中で、ぜひともエコ情報をページに載

せていただければというような部分の思いがあったものですから、ぜひともそういうふうな形でフェイスブックあたり一元化のほうで、その辺のエコの武雄市としても盛り上げていきたいというふうな形で思っておりますので、よろしくお願いを申し上げて、次の質問に移らせていただきます。

次は、小中一貫教育の導入について、教育長の御見解をお尋ねしていきたいと思えます。

武雄市においては、幼・保・小・中の連携プログラムということで取り組みをしていただいて、その辺の実績も出ております。そういった中で、初日の上野議員のときにも教育長の答弁の中で、今の現状の課題はどう思っているというような部分の中で、不登校対策も重要課題というふうな話もされておりました。現に武雄市は小学生で11名、中学校で61名の不登校の生徒さんがいらっしゃる。要するに小学校11名、中学校になると61名、約6倍ですね。全国的からいくと、全国平均——平均で云々という問題じゃないでしょうけれども、小学6年生の生徒たちが中学1年生になったときに、不登校が3倍になっておるとですよ、全国平均でいけば。ただ、武雄市の今小学校6年生が中学1年生になったときに不登校がどのくらい出てきたかというのは非常にそこまでは数字は持ちませんけれども、今、武雄市内では中学1年生が11人やったですかね、不登校の生徒さんが、2年生が25人、3年生が25人と聞いておりますけれども。その辺の不登校に対しての小学校から中学校にかけてはもう6倍という不登校の生徒がふえているというような現状を、教育長としてはどういうふうな形の原因でこういうふうな不登校が増加しているのかどうか、その辺の実態をどうつかんでおられるのかどうか、おわかりになれば御答弁をお願いしたいと思えます。

**○議長（牟田勝浩君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

お尋ねの不登校の件につきましては、先般、答弁の中で説明したところでございますが、その際も申しましたように、中学生の30人、約半分近くがやはり心的な要因で学校に行けないという状況。それから、あとそれ以外の要因で行けない子が約半数という状況でございます。小中のかかわりで御質問あっているわけですがけれども、最大の課題として、現在、小学校の先生方も中卒の段階を見越した方針、構えで取り組んでいただきたいということで、実際に取り組んでいただいているわけでありまして、原因、本当にいろいろありまして、はっきりすれば、その対応もしやすいわけでありましてけれども、率としてもかなり高い段階にあるのは承知しているわけでありまして。その中でも、やはり友達関係であったり、学校での生活というのが原因になるのも少なからずあるわけでありまして、そこについては少なくとも学校で解決できるんじゃないかと。そして、あと保護者の方とこれまでのいろんな子どもさんの成長の様子から、小学校での様子から、中学校の先生方との連携もあって、そして、保護者の方も交えて話したり、事前に入学前に連絡を取り合うなど、そういうことで対応し

ているという状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私からは、よく不登校、中1ギャップというようなことで言われておりますけれども、何とか不登校にさせないように、行政としての取り組みの部分ということで小中一貫教育を導入されたところが、導入した結果によって、学力を確実に高めることができた、児童・生徒一人一人に対する連続性のある指導ができた、あるいは小学校から中学校への環境の変化を緩和することによってストレスも解消できた、あるいは幅広い年齢の児童・生徒が学校生活をともにすることによって多様な人間関係ができて、不登校の生徒たちも減少傾向にあるという結果報告も現に出ております。

そういった中で、大阪市と神戸市は、23年度から全小中学校の小中一貫教育の導入をしております。そういった形で教育環境も自由化といいますか、非常に柔軟性を持った取り組みを、各特色のある学校づくりというような部分の中で取り組みを非常に全国的にも取り組んでおります。そういった形で市長からの答弁も、地域で育てるという部分も大事でしょうけれども、やっぱりこういうふうな取り組みもぜひともしていただければというふうな思いでいっぱいでございます。

それとか、小規模校で北中学校の話をさせていただきますと、今年度1クラス減少したわけですね。先生が2人減るわけですよ。1クラス減れば、先生2人減ですよ。そういった形で、専門の先生たちはもう不在で、思うような教育が行き届いているかどうか、あるいは専門的なクラブ活動も外部の方をお願いしているというふうな状況の中で、小中一貫教育の中ですれば、先生たちの連携もできて、いろんな面で効果が出てくるんじゃないかというふうな形で、ぜひとも、とりあえずはモデル事業というような形でも結構ですけども、そういうふうな小中一貫教育の導入について、御見解をお尋ねさせていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

できるだけ短くお話ししたいと思いますが、ここ数年におきまして、武雄北中、川登中、学年1クラスという形だろうと思います。それに特別支援学級の子どもさんがおられれば、4クラスという期間が幾らか続くだろうというふうに見ております。

教科の専門につきましては、これはかなり県のほうもできるだけ専門外の先生の指導はなくすということで、講師等の派遣でしております。

それから、小中一貫教育につきましてですけども、中1ギャップをなくすという面で、

今おっしゃったようなメリットがあるということは事実でございます。ただ、そういう中におきましても、小中近接した場合は、非常にそれもスムーズにやりやすいわけですが、今、おっしゃった中にも非常に無理して、小学校が離れているけれども、小中一貫の形でやりたいということがございます。その面では、一番いいのは、やっぱり先生方の意識を変えていただくことができるんじゃないかと。つまり、小学校1年生から中3までを通して、できるだけ見て育てましょうという、そのあたりについては一貫の意義があろうかというふうに思っています。

これまでも御存じのとおり、北中学校でも国立教育政策研究所の指定研究で小中連携をしていただきましたし、山内中校区でも昨年、一昨年、そして川登中校区では今年度佐賀大学と連携したそういうカリキュラムの離れた形での小中連携のあり方の研究等もしております、武雄中でもしていただいておりますし、そういう形での子どもを見ていこうという取り組みは各学校でやっているという状況でございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

やっぱり金太郎あめじゃだめですね。公立でいえば、やっぱりもうどこもかしこも一緒と思うのは、私は間違いだと思いますよ。例えば、私は藤原和博さん、リクルート出身のね、杉並区立和田中学校の話、2回今まで聞きましたけどね、あの中で一番印象に残っているのは、あの和田中というのは5年前だめだめ中ですよ。成績も、非行も、成績は最低、23区立中の中で成績がまず最低ね、非行率最高です。5年間のうちどうなったかといったら、成績は1番か2位ですよ。それで、非行率も極端に減って、今どういう状態が起きているかというと、一番不人気だった中学校が周りからの越境入学がふえていると。そこなんです。ですので、私は公立病院はだめだと思いますよ。だけど、公立の中学校というのは、あるいは小学校もそうなんです、私はわかりません。小中一貫がいいかどうかわからない。しかし、例えば、若木、武内が一貫を望むというふうになったときに、それはそれでいいと思いますよ。武雄中学校はもうスポーツ、ここに来れば、もうオリンピックに出れますよ、いいと思いますよ。ですので、それぞれの金太郎あめじゃなくて、特徴があって、それを呼び水にするということで、学校の活性化が僕は図られるというふうに思うんですね。

ですので、その観点で言えば、やっぱりほかと違うところをする。あれですよ、思いつきとかだめですよ、教育は特に。だめなんですけれども、そういうふうに伸ばしていこうという地域それぞれ、それと、地域をもっと巻き込まないと。私はそういうふうに思っています。

そういう意味で、長くなったので、これで最後にしますけれども、武雄中学校に私は何回か行きましたですもんね。そのときにやっぱり大人が来ると、子どもは喜ぶわけですよ。ですので、そういうふうに地域の我々が守って応援していますというのをもっと我々も地域の

人たちも出していこうということで、相連携をするというのはすごい大事なかなというふうに思っていますので、ぜひ教育委員会におかれては、これは5年、10年かかると思いますが、ぜひそのプランを地域ごとに立てて、そこで地域の皆さんとよく話し合っていたきたいと思えますね。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

まさに私の言わんとすることを市長言っていただきましたけども、まさに地域ごとに特色のある学校づくりといえますか、きょうの新聞を読まれましたか。たまたま18面をあけてみますと、太良高校の校長が不登校や発達障がい者を受け入れるんですよ、県立高校ですよ、障がい者、不登校の生徒たちを受け入れると。全国で初の試み、これがまさに特色ある学校づくりですよ。教育長、校長の裁量といえますか、ぜひ浦郷教育長に力を発揮していただきたいということを切に思いながら。

北中学校も夢プロジェクトを宮地校長のもとで非常に取り組んでいただいております。夢プロジェクト、市長も御存じかと思えますけれども。今回、その夢をつなぐという部分の中で、被災地の中学校と何とか子どもたちをつなぎ合わせたいと、心をつなげようという取り組みをしていただいております。素晴らしい取り組みだと思うですよ。そういったことも非常に現場としてはいろんなかかわりを持って取り組みをしていただいておりますので、大いに教育長もその辺を見据えていただいて、ぜひとも特色ある学校づくりをしていただければと思えますので、よろしく願いをしておきます。

それでは、あと10分ほどになってきましたので、かいつまんで質問をさせていただきたいと思えます。

次に、みんなのバス事業等の交通弱者に対する対応についてお尋ねをしていきたいと思えます。

これはさきの山口議員のほうから若木町の実態を説明していただいておりますから、詳しいことはどうか、もう少し踏み込んで私も話をさせていただきたいと思えますけれども、前回、導入していただいたとき、乗車率が1.4人やったわけですよ。若木町の乗車率1.4人。これは何とかせにゃいかんばいということで、老人クラブ、長寿会、それから育友会、それから婦人会、各方面でいろんな知恵を出し合って、何とか乗車率をふやそうということで数回会議を持たせていただきました。そして、今回、老人会の井手会長さんの発案で、ふれあいサロンを公民館でしたら乗車する方がふえるとじゃなかろうかという御提案をいただいて、実際、もう2回ふれあいサロンをしていただきました。その中で、もう乗車率が倍増ですよ。大いに乗っていただいております。もうまさにみんなの足になっているわけですよ。

ただ、その中で1点問題があるといいますか、それも大事な部分ですね。ただ、若木町ですから、北方、山内とは若干環境が違う。病院もなければ、病院は学校の近くにありますが、スーパーがない。もう若木町だけ隣保班ばぐるぐる回ってもなかなか、当然乗り手がない。町外に出る交通手段を何とかつくっていただきたい。例えば、若木町でみんなのバスと循環バスを利用して、菅牟田という地区がありますけれども、1時間半かかるんですよ、武雄温泉まで来るのに1時間半。自家用車だと15分から20分。あるいは高齢者の方が乗り継ぎというのは非常に抵抗がある。それと、1時間半もかけて武雄に出てこんばぎ、もうだれかに頼んで我が車でという部分がありますから、そういうふうな部分の中で、地域は地域でいろんなアイデアを持って、若木町もサロンで何とか利用者をふやそうという地域力を持って話し合いの中で実施をさせていただきました。ただ、さっき申し上げたように、何とか町外に、新武雄病院に週2回でも行けるような運行規定の見直しをできないものかどうか、それはタクシー業界とかバス業界、あれは法的な部分の制約が当然あることはわかっています。ただ、そういうふうなことで週2回でも、新武雄病院もできたことだし、何とかその辺の運行の幅を持っていただければ、もっと喜ばれる若木町民のみんなのバスとなるというふうな形で思っていますけれども、市長の御見解をよろしく願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

みんなのバスAとみんなのバスBをつくります。それで、Aは今までどおり若木町を中心として循環をするというですね。Bグループは、週に1回か2回かわかりませんが、例えば、市内の金融機関とか、スーパーとか、小売店舗とか、そういったところを回るといふふうにして、比率はやっぱり7・3じゃなきゃだめだと思うんですよ。やっぱりそれをすると、既存のバス会社とかタクシーさんとともに競合すっけん、僕はそれは避けたい。やっぱり共存共栄ですもんね。ですので、そういう意味で、私はその声は結構聞いております。北方からもそれは聞いております。ですので、やっぱりニーズに応じてするというのはすごい大事。しかし、そのニーズに全部応じとったら、それこそ制度の根幹が失われますので、そこはバランスが大事。ですので、一つの結節点というか、合流点としては、みんなのバスAとみんなのバスBをしたいというふうに思っています。もし、Cがいいということであれば、もう少しこういうプランがいいよということがあれば、ぜひまたおっしゃっていただければありがたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

利用価値というか、利便性が大きく広がる御答弁をいただいて、非常にそういうふうな状

況であれば、また大いに若木町でも地域で考えて、こういうふうな形での運行をしようじゃないかというふうな意見が広がりが出てくるかと思えますから、ぜひともそういうふうな形で試験運行の時期ですけれども、ぜひとも来月からそういうふうな形で具体化できるようであれば、その辺の指示もしていただいて、対応をぜひしていきたいと思えますから、よろしくお願いをいたします。

それでは、もう時間も迫ってきましたから、最後の財政改革についてちょっと確認をしておきたいと思えます。

市長の努力で、起債、借り入れももう激減というか、ここ五、六年で90億円減少しております。それはもう当然、市長の率先的な行革のたまものだと思いますけれども、ちょっと1点私も気にかかる部分があるわけですよ。目に見えない臨時財政対策債という借り入れがあるわけですよ。それはこの予算書には除くとなっておりますよね。ただ、実態としては臨時財政対策債、これは一般財源分が不足したときには、責任持って、返済は国がしますから、地方は地方債を発行して借り入れしていいですよというふうな地方債ですもんね。それがふえてきているわけですよ。58億円、68億円、今年度は73億円という、これだけが増加傾向。国が責任を持つから、不足分はもう各地方で調達しなさいという部分ですけれども、果たしてこれ問題ないのかどうか、市長。赤字国債というふうな部分の中で、全国的に今の税収が93億円ですか、40億円が税収、43億円が赤字国債ですけれども、それ以上にこの臨時財政対策債を加えると、莫大な借金の状況ですよ。これは今後武雄にも影響がないのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思えますけれども、御答弁をお願いいたします。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

予算には法定と任意というのがあって、私は、もし臨財債が任意だったら、借り増しはせんわけですよ。国はもう信用できないから。しかし、この臨財債に関していうと、その全額を後年度、地方交付税の基準財政需要額に入れんばいかんわけですね。ですので、これは地方財政法の第33条の5の2というのにもうあるわけですよ。ですので、これがあるから、今我々は、やっぱりどうしても必要な事業というのはありますもんね、突発的なこともありますので、その分のものを僕は減らして、100億円減らして、こっちで100億円減らしとっですよ。私が市長に就任させてもらったときは400億円ありました。それで、大ざっぱに言えば、基金の積み増しまで入れると、100億円返しました、100億円。実際、ここは出てきませんけど、それでも15億円しかないんですね。15億円。ですので、100億円返して15億円ということですから、私はトータルで80億円、今まで返しましたと言うわけですよ。ですので、そこは100%というものはないかもしれませんが、やっぱり元利が高かったり、返さんばいかんとはどんどん返して、より安全なところでどうしても必要な部分というのは、や

っぱり中野課長の指揮のもと、それはちゃんと確保して、必要な予算にきちんと充てると、そういう財政運営をしております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

決算上の地方債の中で、この臨債だけがふえていたものですから、これなぜかという部分で非常に疑問視、問題点を持ったものですから、ちょっと確認の意味で市長に確認をさせていただいた、ちょっと安心をさせていただきました。

それと、予算執行というような部分で、今回の震災によって、公共事業が5%削減というような形で聞いております。実際、武雄市も16%ぐらい影響が出るだろうということで答弁もいただいておりますので。ただ、梅雨時期で危険箇所も出ております、現に。そういうところにはいろんな予算を工夫していただいて、早急に対策をとるところは対策をとっていただくことが必要だと思いますから、ぜひともその辺の削減分、削減がされたからこの分には工事はできないよと、先延ばしということがないように、危険箇所に関しては当然優先順位があるかと思えます。また、各区においては、各区に行っていただいて現地も調査されて、危険箇所も十分認識をされているかと思えますので、その辺は十分災害が起きる前に早急な手だてと財源も確保をしていただいて、対応をしっかりお願いを申し上げて、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で6番松尾陽輔議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、10分程度休憩いたします。

休 憩 14時25分

再 開 14時34分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、19番山口昌宏議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

こんにちは。議席番号は19番ですけれども、4番目の山口でございます。（「3番」「3番目ばい」と呼ぶ者あり）4番目です。（「どがんでんよか」「山口がさ」と呼ぶ者あり）4番目の山口でございます。東日本大震災で被災に遭われた方々の御冥福と今後努力されることを、まずここでお祈りをしたいと思います。

それでは、4番目の山口でございますけれども、思いつきじゃなくて、市政の今後のためにと思いながら一般質問をさせていただきます。

今回の一般質問で3項目上げさせていただいております。1番目が新武雄病院の運営のあり方について、2番目が安全・安心について、3番目が道路行政についてということで出させていただいておりますけれども、まず1番目の新武雄病院の運営のあり方についてということで出しております。

なぜこれを出したかといいますと、ちまたではいろんな皆さん方がおられましょうし、いろんな皆さん方のその口に戸を立てるということはできないかと思えます。そういう中で、新武雄病院ができた、6月1日から開院をした。そういう中で、新武雄病院ができたがために国保税が上がるのではないかという話がちまたでは出ております。そういう中で、本当にそれが現実であるのか、あるいはそれこそ誹謗中傷じゃないですけども、そういうふうなたぐいなのか、その辺についてまずお尋ねをしたいと思えます。

### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれは制度がやや複雑ですので、パネルを使いたいと思えます。（パネルを示す）

まず、宮本栄八議員が、この栄八通信というこれ、何か怪文書かどうかわからないような、新病院の開設の影響か、3,000万円程度増加していると、こう書いてあるわけですね。もうこれはでたらめですね。まず、きちんと申し上げますと、この診療報酬改定、これは国の国策で全体改定率がプラス0.19%、約700億円の増になっているんですね。これは10年ぶりのネットプラスになっているわけです。ここで大きいのは、急性期入院医療におおむね4,000億円を配分して、ここでまた上がっておるわけですね。特に急性期のものが、救命救急ですよ、上がっているということで、新武雄病院があるからといって、そのものがあるからといって上がっているというふうにはならないわけですよ。

それで、次に進みます。（パネルを示す）

これもちまたのうわさでよく聞くんですけども、療養諸費が高いんじゃないかということをおっしゃるんですけど、これは市を単純に並べました。高い鳥栖市から安い伊万里市まで並べると、ちょうど中間点なんですね。伸び率もほかと比べるとそんなでもないんですよ。ですので、これが今、武雄市が置かれている状況です。ちょうど10市の中で真ん中。これは20市町ありますが、大体真ん中です。

（パネルを示す）で、新武雄病院なんですけれども、これも公式に出ている数字を出しますと、大体こういう感じなんですね。皆さん方から見て右の部分が平成18年6月から22年12月、大体総じて言えば上がっているんですよ。これは、先ほど申し上げました急性期病院についてはどこもやっぱり、これは全国どこもそうなんですけど、こういう中核病院、あるいは救急告示病院というのは上がっています。その中で、武雄の場合は赤で記載しましたけれ

ども、嬉野医療センターとか佐賀大学医学部病院、白石共立病院を上げました。これは全部公開されていますけれども、これを見たときに、じゃ、新武雄病院だけ突出して上がっているかということについては、私はならないというふうに思っていますので、何でいまだに新武雄病院がこういうふうに言われるのか、もうかわいそうでなりませんよ。ですので、あんまり宮本栄八議員におかれても、栄八通信で書くのは自由ですけれども、あんまりでたらめを書いてほしくない、このように思っております。（「上がった理由は何なのか」と呼ぶ者あり）

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、横しで上がった理由は何なのかというようなお話を議員がされておりますけれども、私、2年ぐらい前から、ある人の話をいろいろと勉強させていただいております。その中で、山口、おまえはすぐかあつとなる、あるいは目のぎらぎらしておる、ずっと言われながら、そういうふうなところがあるのかなど。かといって、サバの腐れたごたる死んだ目でもまたいかんやろうしと。そしたら、どの辺をいくか。やっぱり人間は自然に素直に生きらばいいかなとかないというふうに思っております。

そういう中で、先ほど栄八通信という中で話がありましたけれども、その中にこういうふうなことがあるんですね。設計屋さんの名前が書いてあった。要するに病院の場所のところに設計屋さんの名前が書いてあった。それを見て、やっぱり癒着じゃなからうかというような書き方がここにされております。ひょっとしたらこの問題については私のほうが宮本議員よりも詳しくかもわからん。というのは、これそのもののもとには東川登の方です、出身が。そういう中で、この話があったときに私は本人さんに聞きました。その設計会社に勤めよったら、その人は会社員としての、その会社の守秘義務があろう。その守秘義務も守らんような人やったら、その会社ではなかなかおりにくかろうと、そのお兄さんに言いました、これを言うた本人に。それは本人いわく、もううちの妹は早う首になったもんねと、そんな話なんです。

それともう1つ、ここに書いてある部分で、もう正式に設計事務所の名前が書いてあります。佐藤建築設計事務所というのを書いてありますけれども、この佐藤建築設計事務所なんというのは本体の新武雄病院の設計はしていないんです。全くのでたらめなんです。この新武雄病院の設計をした設計の会社は、平建築設計事務所という設計会社です。その孫請か下請か知らんですけれども、佐藤建築設計事務所というのは確かにありました。

それで、こう書いてあるところは、「癒着性のある出来レースで合ったのではないかと改めて思う」と書いてある。「合った」というこの字は、これは本当に合っているんですかね、漢字として。

〔市長「合っていません」〕

そういう中で、この辺について、余りにもひど過ぎるんじゃないかと思っているんですけど、その点についてどう思いますか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これをどう見るかですよ。（栄八通信現物を示す）真つ当な議員の議会報告と見るのか、それともワイドショー以下の怪文書と見るのか、だから、その見方によって、あんまり目くじら立てんほうがいいのかなどというのも思いますけれども、ただ、これは議員が書かれているものですので、ここはやっぱりしっかり追及しなきゃいけないと思いますよ。言うてもわかんされんと思いますけど、でも、これは市民の皆さんたちが、かなりきょうごらんになられているそうなので、あえて申し上げたいと思いますけれども、まず議員が出来レースという言葉です、懲罰にもかけられたみたいですが、こういうふうな公式の文章に出すというのは、私は正直言って見たことがありません。その中で出来レースと評されることは、民間移譲に応募された2法人の名誉を著しく傷つけることなんですね。私は市を代表いたして極めて遺憾なことだと思っています。市民病院の民間移譲先を決定するに当たっては、公正公平に決定することが何より重要、そして徹底して情報の公開を行ってまいりました。その中で、信友委員長を中心として、第三者から成る武雄市民病院移譲先選考委員会を設置したわけですね。その中で、委員会の答申に基づいて移譲先を決定します。選考の途中では、応募した法人による説明会を公の場でも行いました。この状況は、ケーブルテレビでも中継をされています。選考委員会の会議概要は、終了後、委員長が記者会見で一回一回ブリーフィングをされています。後日、議事録、選考委員会の委員氏名を公表いたしております。このように、移譲先医療法人の選定は、適切な手続を踏んで公正に進めてきたというのが手続論としてやっぱりあるんですね。

これは最後にしますけれども、私もいろんな議員、国会議員、県会議員さん、市議会議員さんを見てきましたよ。おつき合いがあったり、いろんなのありますけれども、これほどひどいのはないですね。もうこれだけに限らず、本当にこれは誹謗中傷のあらしで、これを市民の皆さんたちが、やっぱり市議会議員ですからね、信用されるということに私は問題があるというふうに思いますよ。ですので、私からすれば、これを市民の皆さんたちに信用するなど、そういう高飛車なことは言いませんけれども、ぜひ栄八議員が書かれていること、そして我々が、例えば答弁で言っていること、いろんなことでぜひ比較考慮をしてほしいと。だから、我々の言うことだけをうのみにする必要はありません。ですが、いろんな意見の中で何が一番正しいのかというのを、それが私は参加型民主主義だと思いますので、ぜひそれは市民の皆さん方をお願いをしたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

そして、ここに書いてあることが、「市民病院の問題は、民営化改革に名をかりた癒着性のある出来レースで合ったのではないかと改めて思う」と書いてあります。それで、私が画策したわけでも何でもなかとですけれども、きょう、たまたま朝、ある病院の偉い方から電話がありまして、佐賀弁じゃなかけんですね、山口さん、こういうふうな言い方で言われたんですけれども、実は今、裁判、要するにどうしようかと考えておる、この問題について。ここまで出来レースとまで書かれて、我々、今から武雄に根を張って病院運営をしていかなければいけない。そういう中で、出来レースとまで書かれたとに私たちも黙っておくわけいかんやろう。私たちだって顧問弁護士はおります。法的手段をとろうかなと今病院内で話をしておりますというような話でした。けさです、それは。

それともう1つ、金曜日の一般質問の中で、私もまさか、また前々回か何かずっと前の一般質問の資料を引き出してまで質問ばせんばいかんとの出てくるとは夢にも思わんやったわけですね。それは何かというぎ、要するに訴訟の問題ですけれども、21億6,121万531円の訴訟がなされておりますよね。その中で、金曜日の一般質問をされた25番議員の質問の中で答弁があったのが、9億1,538万円になったという話がありましたけれども、その辺についてちょっと答弁を求めたいと思いますけれども。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

正確に申し上げます。私ももうびっくりしたですね。21億6,121万531円が訴訟の額だったんです。私にそれを支払いなさいという額だったんですけれども、突如9億1,538万円に減額をされたんです。原告は、平成23年6月2日に請求の趣旨の縮減申立書を佐賀地方裁判所に提出、請求の趣旨を縮減するとした。その中で、請求額を9億円弱というふうにしてあるわけですね。もちろん平野議員もおっしゃったように、減額というのはあるんですね。増額というのこともあります。私も裁判にかかわってきましたから、あることはあります。しかし、21億円が9億円ですよ。ユニクロでもこんなにまけませんよ。もともと訴訟で21億円となったのが20億円に減額されるとか、ですよ、平野議員。本当にこんなでたらめなものはないですよ。市民をばかにするにもほどがありますね。本当に裁判をするというのは、住民訴訟であっても何ら、民事であっても、刑事であっても、本当に重いことです。それをこんな思いつきみたいな21億円と言って、今9億円と言うのは、本当に記者会見を同席された平野議員に聞いてみたいですね。ですので、そういう意味で、だんだん興奮してきたので、この辺でやめますけれども、この請求額の変更に関しては、私はまことって不可

解だと思っています。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員（発言する者あり）

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

よかでしょうか、質問して。（「どうぞ」と呼ぶ者あり）よかですか。

なして私が聞いたかという、要するに21億6,100万円に対しての訴訟費用なんでしょう、1,260万円は。しからば1,260万円の訴訟費用は、減額になったら、それに見合うだけにまた減額になるわけですか。その辺、答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとすみません。先ほどちょっと、やや私に珍しく興奮しましたので、何でこういうふうに変更されたかというのを、これは弁護士からも許可を得ていますので、それをちょっと申し述べたいと思いますね。

この縮減した趣旨なんですけれども、原告側は、昨年5月10日付の訴状にあった土地、建物を安く売ったのは違法とする主張、1ベッド1,000万円という価格ですね、これはフランソワベッドでも1,000万円ないですよ。で、医療機器の無償貸与は違法と主張しておんさったわけです。あるいは医療機器の購入を駆け込みで決定し、購入したことは違法というふうに言うておんさったとばってん、この3つが全部今回却下、自分から。だから、構成要件の3つが全部、3本柱が全部落ちておるとですよ。この前、どなたかの議員に言いましたけれども、普通、構成要件って柱ですもんね。柱を全部取っ外したらどがんなるか。屋根全部落ちます。で、それにもかかわらず、原告はがん言いよんさるとですよ。平成23年6月2日に佐賀地方裁判所に準備書面の、今度5ですね、5回を提出。不動産価格について主張、立証を行う予定なしということと言われたので、何でこれで裁判が続くのかということは、まず先ほどの答弁に補充をしたいというふうに思っていますけど、ただ、じゃ、これで弁護士費用が安くなるかと。なりませんよ。我々は21億円という算定根拠や、物すごく困難な、こういう巨額な、あの橋下知事も驚くような、私の友人の共産党の友人ですら——私も共産党に友人おられますよ、ここの方は違いますけど。本当にこんな巨額な、もう乱訴みたいなのは聞いたことないと言っているんですよ。

その中で困難な困難な中に弁護士さんにも引き受けてもらって、この裁判の構成からしてこれだけの価格があるということで議会にお願いして、議会で可決してもらったわけですね。それを今さら、21億円が9億円になったとって、弁護士費用を下げろなんて言えませんよ。しかも、延びているわけですよ。もう7カ月延びておるけんが、私、冷や冷やしておるですよ、追加の要求されるとやなかろうか。そいけん、このごろ電話切っておるですもんね、

もう。ですので、そういう状態にあるということはぜひ、そいけん、逆に損害賠償請求ばしてくれんですか、本当。私は被告ですので、それもできません。ですが、これは、私は本当に重大に損害を与えていると思いますよ、市民の皆さんたちに。ですので、心ある、もう山口昌宏議員みたいな方が、やっぱり住民訴訟じゃなかった、もう住民訴訟したらいかんです、損害賠償請求も一つやっぱりあると思います。これは行政がするわけにいかないんですよ。私、訴えられているほうですから。ですので、こういうことが起こるということをぜひ市民の皆さんたちに御理解をしていただきたい。これこそ、どぶにもうお金捨てるようなものです。これをぜひ御理解していただきたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

実は、私も損害賠償請求すべきじゃなかかいと思ったとです。それは何かといたら、1,260万円の、要するにこの根拠というのは、21億6,000万円に対しての1,260万円なわけでしょう。そういう中で、請求額というか、今度出し直した9億1,500万円やったら半分以下ですよ。半分以下やったら裁判費用も半分以下にしてもらわんぎ、武雄市民の余りにもかわいそうじゃないか。そういう中で、損害賠償請求を出したらどがんですかと言おうかにやと思うておったぎ、市長が、いや、ほんなごてそっちからしてくれんですか、市からは出されんけんがというような話なんですよ。まさに、例えば、これが半分になったらすれば、1,260万円というぎ600万円ばかりか、約600万円ばかりは減額になるわけですよ。そがんとぼ考えるぎ、簡単にしてほしくなかわけですよ。

それともう1つ、まさかがん言わんばらんと思わんやったとぼってんが、今、今回の分で135床のベッド数とか医療機器の分についてはもう削除されておる。私は一般質問でずっと前にも言った。21億6,121万531円のこの根拠だって、ちゃんと計算したら出ております。この間言ったことも、135床のベッドの1床当たり1,000万円、13億5,000万円ですよという話が出てくるわけですよ。そういう中で、13億5,000万円の根拠は何かいと。だれがどがん考えても、これは出てこんわけですよ。それはなぜか。武雄市が国から移譲を受けて市民病院になしたときに、例えば、1床当たり100円でも金を出しておったら、いんにゃさと、10年間で1,000万円の価値になっておるといふ考えは100%できんとは言えんですよ。

〔市長「そう」〕

ところが、株だってそうでしょう。100円で買うたばってん、売るときは500円でなりと売るぎにや1株当たり400円のもうけやもんのと。そういうふうな考えで持っていったら、100円でも買っておったら1,000万円になっておったよという可能性はあります。しかし、武雄市は、それを移譲を受けた上に、国から13億円ぐらいの補助金をもらって、土地をかうてみたり、あの辺の整備ばしたですよ。逆なんですよ。そして、医療機器の無料貸し付けはだ

めですよと。全部払ってください。もつてのほかなんです。そのときに私何と言ったか。医療機器の、例えば、757品目の中の内ですね、全部で計算するに何億円になるか、私はわかりませんよ。無償で貸したけんが賠償しなさい。武雄市民の命からしたら、武雄市民の命はそがん安かとかんと私はそのとき言うたですよ。これを見たら、その中の、757品目の中の653品目はもう耐用年数なかわけですよ、その当時で、新武雄病院になった時点でもうなかわけです。あと残りは100品目ぐらいしかなかですね。そいぎ、よう考えたら、あと100品目しかないですけれども、今月の6月1日から新しい病院に移転して開業をし始められました。そのときには、その100品目の中の50品目はもう耐用年数過ぎておるわけです。その表をどこかでもらいましたよね、前に。それをずっと計算した分なんです。それで、残りは新武雄病院に仮に持っていきますよと言ったって、757品目の中の40品目ぐらいしかもう持っていかれんごたる状態なんです。そいぎ、そこの40品目を金に換算したら、どがん高う見ても6,000万円ぐらいしかならんわけです。そこで皆さん方に考えてもらわんばいかんことは、武雄市民の5万何千人ですか。

〔市長「1,000人」〕

5万1,000人の命というのは、たった6,000万円なんです。余りにも武雄市民の命を軽く見ておる、私に言わせればそう思うわけですね。生命保険だって、近ごろは交通事故のときの保障は無制限と書いてあるですよ。そういう中で、武雄市民の命ばたった6,000万円ぐらいに見てもらったら大迷惑、逆に。そのくらいにですよ、武雄市民のことをどう思われて訴えられたのか、私はわかりません。しかし、方法があれば、今後、その賠償請求に対しての1,260万円の武雄市が皆さん方の血税で払う、その金をどうにかして、例えば、半分にでもなるのであれば、本当に裁判にでも持っていきたいと思うわけですが、再度その辺について答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、本当に心情的にはもう全くそのとおりですよ。もう本当に、これまでの間に武雄市民の血税が1,260万円も支弁されているわけですよ。前、平野議員だったと思いますけれども、これは高過ぎるのではないかというふうにおっしゃったんですね。でも、これ、1,260万円が多い少ないの話じゃなくて、もう1円でも2円でも、この費用がもしほかのに使えれば、私は福祉に、みんなのバスとかに使いたいですよ。だから、訴えた、お先棒を担いだ人がこれを高いんじゃないかとかと言う資格がそもそもあるのかというのはやっぱり思いますよね。

〔25番「お先棒で何ですか」〕

お先棒ですよ。その上で記者会見同席しているじゃないですか。その上で、お先棒を担い

だ議員がそういうふうにおっしゃること自体が私は不遜のきわみだと思いますよ。

その中で、私がぜひ申し上げたいのは、じゃ、それを、さっきちょっと言葉が過ぎて、訴えてくださいというふうにちょっと申し上げたんです。これは言葉が過ぎました。これを市民の皆さん一人一人のこととして考えてください。その上で、私は市民の皆さんたちの、これは議員も含めてそうですけれども、もう良心良識にゆだねたいというふうに思います。私が訴えろとかなんとかということになると、それはまた、被告ですので、それは真摯に、謙虚に自分の立場というのをわきまえなきゃいけないと思っていますので、ぜひ私は、先ほど山口議員からも指摘があって、私も答弁しましたけれども、ぜひこれね、自分の税金の問題、あるいは自分たちの医療の問題として、それと本当にこの住民訴訟で、私のイメージが棄損されるのはいいですよ、私は。しかし、武雄市のイメージが本当に悪くなっている。いまだにいざこざがあるのかと。それは言いましたよね、山口議員。あそこ、仙台に行ったとき、開口一番言われたですもんね。ああ、あそこ、病院でもめておるところでしょうと。私はそういうことで有名になりたくないですよ。元気で一生懸命やっているという意味ではすごく武雄市も評価されていますけど、病院でいざこざの起きておるでしょうと言われて、もうあのときやっぱり涙の出たですね。ですので、そういう意味からして、ぜひこれは、実際、裁判を応援する方々にもぜひ申し上げたいと思うんですけれども、実際、もし私を訴えたい、私は嫌われていますよ、好かれてもおりますけど、嫌われている人には言いたい。私がもしこれで着服をしているとか、あるいはこれで不法行為を行っているとかというのを見つけたとき——していませんよ。見つけたときに、ぜひ住民訴訟じゃなくて民事で私を訴えてください。私はそれを、江原議員いらっしゃいませんけれども、平野議員と江原議員には政治家仲間としてぜひそれは言いたいというふうに思います。損害賠償請求については、私はコメントする立場にありませんので、この辺にさせていただきたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

19番山口昌宏議員

**○19番（山口昌宏君）〔登壇〕**

今、一生懸命探しよった。前の質問のときに江原議員の言われたことばずっと探しよって、あら、さっきあったごたつたなと思って見て、江原議員、何と言われたかというぎ、訴えられた原告の皆さん方と自分是一緒になって今から頑張っていく覚悟ですと、それは議事録にきちっと載っておるわけですね。それは、前のときに議事録を写してここに書いておったとですけども、ちょっと今ないですけど、わからんですけども、そういうふうにどうなのかという思いのある中で心配をしております。

それと、先ほど、まだいまだに新武雄病院ができたがために国保税が高くなったんじゃないかという話があるということで、私、ちょっとお尋ねをしましたけれども、その中で何で私がこれを言ったかという、ある武雄市でもそれなりの地位のある方で、それなりの職に

ついておられる方です。その方が結構あちこちで、例えば、あそこの病院ができたけん国保税の上がっていくばいという話をあちこちされておるような形跡というか、皆さん方から聞くわけですね。そいぎ、そういう中で5月22日がオープンセレモニーやったとですかね、病院の。そのオープンセレモニーも、その方にも案内状が行っているわけです。

〔市長「だれね」〕

名前は言うたらやっぱり失礼になるかなと思ってから、ちょっと今言っておりませんが、その方にも案内状が行っております。それで、案内状が行って、その方はどがんされたかというぎ、その日、何じゃい北方でゴルフのコンペがあったそうですね、町民コンペ。それで、旧武雄市の人ですよ。その人はどこにおらしたかというぎ、そのゴルフのコンペにおらした。そういうふうな、それなりの地位のある方でそういうふうなセレモニーにも来ないでしよらす人に、何かそういうふうな中傷だけはしてほしくないですね。

そいぎ、おととい、おなかの痛かったけん、何か上品かごたっ言葉でおなかの痛かったと言いましたけれども、それで病院に行ったわけです。そいぎ、今度の院長さんが西田先生なんですね。そいぎ、西田先生、病院に話を聞きよったら、新聞の1面に宣伝じゃなかですけど、新武雄病院として載っておったですよ。そいぎ、その新聞ばひどく握りしめて、「この人をお願いします。この先生に診てほしか」と言うて来た人が何人もおる。それはクラークさんの、クラークさんというのは病院の先生と患者さんとの合い中を持つような人、その人がそう言われた。そいぎ、普通の平日の日は午前中で外来受け付けはもうやむっとでしよう、ようわからんとですけど。そいぎ、その先生に限ると言うぎおかしかばってん、終わったとは夕方5時半やった。そのくらいにその先生の名前というのは大変なものかなと。うちの武雄の市長もそのくらいになってくれたら、もっとお客さんもふえるのかなと思ったとですけどね。

そういう中で、日本全国一律であるはずの税金が、病院の診療の点数が、何でそんなに曲げたような言い方で言われるのか、全くわからんわけですよ。そういう中で、この新武雄病院というのは、もうできて、皆さん方の、武雄市民の命を守ろうという気持ちになっている中で、何でそこまでせんばらんとかなという気持ちでこの質問をさせていただきました。

それでは、次の2番目、安全・安心についてということで行きたいと思います。

私は実は、2番議員、1番議員、3番議員と、要するに皆さん方と一緒に被災地のほうに行ってきましたけれども、まず安全・安心の面から教育委員会のほうにお尋ねをしたい。

それは何かといったら、ボランティアで行って、帰ってきてから、たまたまボランティアで行って朝帰ったんですよ、武雄に着いたんです。朝着いて、すぐ東川登の相撲大会ということで会場に行ったときに、あいさつをするときに、やっぱり私も興奮しておったとでしょうね。皆さん方の前で話をするときに、被災のことをちょっとだけ話したわけです。そいぎ、そのとき涙の出とまらんとです。相撲大会のあいさつの中でですよ、子どもたちに話をす

るとき。そして、その後、校長先生からちょっとお話がありますということでお話を聞いたときに、ぜひうちの小学校の子どもたちに話をしてもらえんかという話だったので、私でよければということで、まず話をする前に、山口等議員、あるいはほかのメンバーの議員さん方の写真があったわけですね。いっぱい写真を撮っていただいております。そういう中で、その中から100枚ちょっとぐらいの写真を校長先生にまず先に上げておいて、これをどうされるかは私もわかりませんでした。しかし、何をされたかという、その写真を廊下に張られたようです、ずっと。そして、子どもたちが見た。そして、子どもたちが何をしたかという、一口の感想文をまず書いた。そして、その後、5月27日だったと思うんですけれども、27日に子どもたちにお話を1時間程度させていただきました。そのときの内容が、（パネルを示す）これが小学校なんです、4階建ての小学校。それで、この一番上が屋上。荒浜小学校です。これが体育館なんです。こういうふうな状況です。そしたら、先ほどの、まことに申しわけないですけれども、松尾陽輔議員の質問の中で、避難場所が60%が体育館だった。これは、仙台の荒浜小学校というところの体育館なんです。もう体育館、まさに何もありません。きれいに完全に壊れております。そして、この4階建て、屋上に上がった人たちは助かった。その下は助かっていないわけです。それくらいにひどかったのが今回の津波。それで、その小学校を中心に、その周りに700戸、700戸といったらちょうど東川登の全戸よりもちょっと多いくらいか、橘ぐらいいかな、700戸の家があった。ところが、行ってみたら一軒として家がない。それくらいにひどい津波であったということなんですよね。

私は何が言いたいかという、学校の危機管理が悪いとか、いいとかじゃなくて、幸いにして武雄市は山です。山ですから、津波はまず来ないでしょう。しかし、橘だって標高でいったら8メートルぐらいいかな。北方もそんなものですよ、標高でいったら。この太さの津波が来たら、ひょっとしたら橘までだつてとまるどころがなかったら来るかもわかりません。しかし、逆に考えれば、津波は津波でも、山つきにつくった学校というのは裏から来るわけですね、今度は山の津波が、土砂が。そういう中で、学校のほうとしてどのように考えておられるのかをまず御答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

学校の安全対策につきましては、先日のお尋ねにも答えたところでありますが、それに加えて、今度、市で計画されております新防災計画にも対応した形で見直しを行っていきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

考えておらんことの起きたのが今回の地震であり、津波であったと思うわけですね。そいぎ、こればどがんするですかと言ったところで、確かに今のような答弁しかできないと思います。でも、私が27日に小学校に行ってお話をした後、5日ぐらいしてからだったですかね、校長先生が私の家に来て、「山口さん、こればちょっと見てください」と言って持ってこられたのがこれです。（資料ファイルを示す）これは何か。校内学習会の東川登小子どもたちの作文集、東日本大震災から学んだことということで、全校生徒の子どもたちが作文を書いてくれたのがこれなんです。全部のこれなんです。そいぎ、危機意識というのを本当に持っているんだなと。今回の地震と津波に関しては、本当に子どもたちが関心を持って考えているんだなということがよくわかります。

一つだけちょっと読ませていただきますけれども、「話を聞いて、「生きようとする気持ち」という言葉が印象に残りました。私たちはふだん、生きようと思ひ、生活しているわけではないからです。被災地では、お米はあるのにガスがないなど、いろいろと不便なことがたくさんあるのだそうです。当たり前ができない、考えたことなんてありません。山口さんの話を聞き、当たり前が当たり前でできることに感謝し、一日一日を大切に生きていきたいと思ひます」、この文は小学校の6年生なんです。小学校の6年生だっとう思っているんです。

そしてもう1つ、3月11日でしたから、3月12日、13日にいろんな方からお手伝いをしていただきながら募金活動をしました。その募金活動の中で、今回、本当に特に感じたこと、これは何だったかということ、まず子どもたちの関心が高かったということなんです。よくよく考えれば、24時間コマーシャルなしでこの災害のことについてはテレビ放映がされました。それが本当の原因かも知れません。しかし、私が思ったことは、「おじちゃん、私たちにも募金のお手伝いをさせてください」、来たのが、ことし新しく卒業する武雄高校の生徒だった。今度卒業したですね、3月で卒業した生徒だった。そして、市長と皆さん方が広報活動をされた。そして、その中で何があったか。子どもたちが、おじちゃん、みんなで募金をしているところに貯金箱、その貯金箱も缶の貯金箱もあるでしょうし、木の箱の貯金箱もあるでしょう、そういう貯金箱を本当にたくさんの子供たちが持ってきてくれた。それと、高校生は茶髪、金髪はいないかも知れません。しかし、若い世代の青年といいますか、少年といいますか、彼らが、茶髪、金髪の子が、さも恥ずかしそうに、本当にこれば何とかしてよという気持ちで貯金箱を持ってきてくれた。そして、こんなことを言うつもりはなかったですけども、たまたまきょうケーブルワンの今あそこに来ております彼が、それこそ缶々に入った貯金箱、瓶やったとかな、瓶か缶々に入った貯金箱、彼がイの一番に持ってきてくれた。何で見たか、ツイッターで見た。ツイッターで見て、いても立ってもおられんで、今回の震災に関しては本当にもうかわいそうだ、自分でできることは今のところこれしかないということで彼が持ってきてくれた。そのときに私が思ったことは、うーん、まだ日本も

捨てたものじゃなかな、この子どもたち、この若い世代の人間がおる以上、絶対東日本も復興する、絶対もとに戻る、そう思ったわけです。

そこで教育長、今私が申しましたような、今回の関心事として子どもたちが特に強かったというその思いをどう受けとめられますか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変重い質問でありまして、たまたま相撲場で子どもたちに語りかけられて言葉に詰まられた場面も私も御一緒させていただいていたときだったわけです。確かにだれもがテレビ、新聞で報道は目にしている、実際に体を使ってボランティアをしてこられた山口議員の話というのは、直接的に子どもたちに響いていたわけでありまして。そして、いろんな子どもたちの感想とかも、私も校長から見せてもらいました。その後のいろんな報道の中で、日本人のモラルというか、そのあたりが随分取り上げられまして、そして、ある教育者は、これが教育の成果だというようなことを話しておられましたけれども、まだ私にはちょっとそこまで言える自信はありません。ただ、それが通じる子どもであり、日本人であったのではないかと、この1000年に一度とも言われるようなことに遭ったときに何ができるかと、国民共通して考える土壌というのは確かにすばらしいことではないかなという思いであります。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょうど4年半ぐらい前にいじめが武雄市内の小学校でばあっと火がついたときに、私、全部の小学校を回って、子どもたちと市長の語る会というのをしたとですね。ちょうど精神年齢がほぼ一緒ですので、みんな聞いてくれて、そこから子どもたちの、いじめというのは悪いということがなったんでしょね。教育長もかわったということもありますけれども、そこからずっとやっぱり減ってきたんですね、表に見える部分は。で、私が先ほど山口昌宏議員と教育長のやりとりを聞きながら思ったのは、これはさっき質問がありましたけれども、京都大学で学生さんに火をつけてきたとですよ、気持ちに。ライト・ユア・ファイア、もう火をつけてきて、とにかく自分たちもやっぱり現地に行こうということ。それは何でそう言ってくれたかという、やっぱり我々が行った経験を話したからなんですね。報道とは違うことを話したり、あるいは本当に自分はこういうふうに思っているということを言って、京大の頭のいい学生さんたちが、じゃ、おれたちも行こうというふうになったわけですね。そこで思ったのは、ちょっと話が、前置きが長くなりましたが、私、議会のお力をかりて中学校を回ろうと思います、中学校巡回。そいけん、武雄中、武雄北中を含めて、山内、北方、いろいろありますけれども、中学生にやっぱり自分たちがやってきたこと、武雄市の取り組

みであったりとか、例えば、この議会の中にも8名の方が実際現場に行っとんさる人のおんさあわけですね。そういう人たちのお力もかりながら、直接もう話をして、やっぱり被災地というのはこういうふうにかわいそうなんだ。先ほどあったように、自分たちの生活がいかに恵まれているか、親の愛情をいかに受けているかというのを、それを直接やっぱり話をしにこうというふうに決意しましたので、教育委員会におかれては、その日程調整をぜひ進めていただきたいと思います。机の上の授業も大切かですけど、やっぱり行ってきたもの、あるいは自分たちが本当に、これは議会の皆さんたちももう一生懸命です。例えば、募金もしかり、さまざまな応援もしかり、そういうことでぜひここは我々政治家で、やっぱり次の武雄、日本をしょって立つような子たちに思いをつなげることが我々としての仕事だと思っていますので、ぜひそういう場をつくっていきたくて、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

その募金をしたときに呼びかけをしました。呼びかけをするときに、今あそこに、壇上に座っております議長が、本当に涙ながらに皆様方に、要するに募金を呼びかけて、今被災地はこうですよ。それで、いても立ってもいられず、自分の友達と連絡をとりながら今回の災害ボランティアだったんですけれども、（パネルを示す）今ここに写真がありますけれども、これは私たちがボランティアで行った家の帰る日の最後のときの写真なんです。何で私がこの写真をここに置いたか。まず1つ、この写真のですね、だれか1人写っておらんですね。これはだれなのか。だれか。下水道課に上田A君——B君が雄一というらしいですけれども、A君というのは哲也君、上田哲也君という職員がおります。彼が撮ってくれた写真のですね。彼は本当に正直な、顔は私と余り変わらんごたる顔をしておるとですけれども、意外と正直な人間なんです。彼が写真を撮ったんですけれども、我々8人議員が行って、そして彼がついてきたんですけれども、よくぞまた乗ってきたかと、わがまま軍団の8人の中にとしたわけですね。そして、今回のボランティアをした後、彼を見ていたら、何かさも自信ありそうな顔をしてから、このごろは一生懸命仕事をしております。何が言いたい。やっぱり現地へ行って、ほんなごてして、ほんなごて厳しい目に遭ったときに人間というのは成長するのかなと思ったものですから、ちょっと彼の名前を取り上げさせていただきました。

（パネルを示す）そしてもう1つ目は、ここに真ん中に写っておられる方が被災者の、私たちがボランティアで行ったところの夫婦なんです。この方の奥さんのほうは、地震があって、友達が「地震が大きかったね」と言ってきたときに、その話をしよったら、海岸のほうから真っ黒か津波の来た。真っ黒か津波の来たけん、その人の車に飛び乗って逃げた。そいけん、私は何とか助かった。うちの父ちゃんは逃げそこのうとんさあと。佐賀弁じゃなけん、そがんは言いんされんですよ。佐賀弁で言えばそうなる。そうして、500メートルぐ

らい先やったとかな、老健施設があつて、そこで拾われてと言ったら言い方おかしいかもわかりませんが、そういうふうな状態で助かつとんさあわけ、お父さんのほうは、御主人のほうは。そして、そのときに3日ぐらいは奥さんとは会えんで、3日ぐらいしてから会ったときに、ああ、お互いに元気でよかったねという話をした。そういうふうな目に遭っておられるものですから、ここの片づけに行った日、御主人、物も言わっさんとです。物すごい本当に憔悴し切つて、力なくて、物を言うてもらえんやっただすよね。ところが、最後の日、表情を見てもらえればわかると思うんですけども、何と言つたらよかとですかね、口ができた。要するに、自分たちが今から生きる目的を何にするかと、その口が見えたから物も言つていただいたし、ありがとうとも言つていただきました。

(パネルを示す) これはテレビで見たでしょう。これは名取市の船なんですね。このくらいにとにかくひどかったというのが今回の地震であり、津波。一番ひどかったのは津波でしょうけれども、そういう中で、口で幾らきれいごとを言つても、だれでも高かところ上れと。この人たちは、高かところ上るその高さのなかとですよ。

〔市長「なか」〕

極端な言い方をすれば、福富、白石が津波に遭つたという感じなんです。福富の人のどがらん高かところ上つても学校の屋上なんです。

〔「そうそう」〕

そういう中で、今から先に何が起こるかかわからん。何というですか、もう天変地異というように、今の世の中というのはいつ何が起つてもおかしくないような状況の中で、行政として何をしていくべきかという話なんですけれども、いかがでしょうか。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

もう私も現地に行つて考え変わりましたね。やっぱり行政がするのは、確かに計画をつくるのも大事、あるいは訓練するのもそれはまた大事、それは大事です。しかし、真っ先に、やっぱり日ごろから一番何かあつたときに、やっぱりボルト並みに早う逃げることです。やっぱり行政の警報ですよ、大津波警報、最初、そこの若林地区は3メートルと言われよつたわけですね。そいぎ、その後聞いたら、その後10メートルというふうに変えておるわけですよ。変えておるばつてんが、そのときには防災無線がもう電源が切れておつて、その10メートルというのがみんなぬかつておらんわけですね。3メートルというとのぬかつておるわけですよ。そいぎ、3メートルあるぎ安心やろうもんと言つておんさつた方々の命のやっぱり失われておるわけですね。その数300人ですよ。300人、一瞬のうちに。ですので、何を申し上げたいかという、やっぱり退却は自分の思う10倍にせんばいかんと。例えば、逃げるときでも、やっぱり助かつておる方もいらつしゃるわけですね、このよし江ちゃんみたいに、

あるいはこの御主人みたいに。ですので、とにかく事があったときに、例えば、武雄は津波はありません。しかし、土砂崩れがあったときには、自分は、例えば、久津具の上野淑子議員はここに逃げようと、あるいはここに電話してここに行きましょうと。例えば、宮裾の黒岩幸生議員は、何か上からがあと水がおりてきたときに、自分は議員でもあるから、この人たちに、後川区長さんに言ってこういうふうには逃げようという、具体的にやっぱり思うておかんぎんた体動かんですもんね。よし江さんと話したときに、やっぱり体の硬直して動かんやったと言いんさるですもんね。そいぎ、私聞きました。「そういう備えというのはしとんさったですか」て。しておるわけなかでしょうもんと。ですので、ああいう被害がいつ何どき起こるか分からないということを我々は絶えずやっぱり言わんばいかんというふうに思います、もうこれはおどしじゃないですけど。その上で、どういうふうには逃げるかと。それと、どういうふうには備蓄の何とかを置くかというのを自分のこととして言うためには、絶えずやっぱり言わんばいかんと思うですね。幸いにして、私は性格は物すごいしつこいです。受けた御恩も忘れませんが、もう受けたマイナスのことも忘れません。ですので、それをそういう思いで絶えず絶えず絶えず言うて、それで皆さんたちの自分の命とか健康は自分で守るということを、ぜひ私は自分の仕事の一環としても、最重要事項としても、議員の皆さんたちとともにやっぱりそれを進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

大げさじゃなくて、大友よし江さんという方が言われたとで一番頭に残っておったとが何と言わしたか。「地震のひどかったね」と言って友達が来た。そしたら、自分の家が海岸から3キロメートル離れておる。そのときに、その3キロ向こうから真っ黒か津波の来た。そのちょうど3キロ離れたところに、何か電波の中継塔ですか、20メートルか30メートルぐらいのタワーがあったわけですね。そいぎ、その真っ黒か津波が来たときに、そのタワーば超えてきたと言わしたわけ。どがん間違っても、20メートル、30メートルあるタワーやけんが超えておらんでしょう。しかし、そのタワーの手前に来たときに波が上がったら、タワーはもっと先に見えますよね。そして、見る人は手前から見るものですから、タワーが全く見れんわけです。それで、タワーをのみ込むような形で来たというのは、それくらいに大きい津波が来たということなんですね。そいけん、要するに危機管理というのは、本ではできません。訓練もできるでしょう。しかし、それ以上のとが来たら訓練も、役に立たんと言ったらおかしいですけども、三十六計を決めるのが一番いいという話です。ばってん、3キロも4キロも走りきらんですよね、年とったら。命に縁のある人はそういうふうで助かっておられます。それでも、個々の意識を今から先はやっぱり持って行って災害に備えんばいかんとかなのというのが今の偽らざる私の気持ちです。

それでは、次の質問に移ります。移る前に、2番議員が手紙を読んだときの、その手紙がこれなんです。（手紙現物を示す）これがそのときの手紙なんです、よし江さんから。その文面というのは、山口等議員から文面は読まれたと思いますので、文面は読みませんけれども、その中で私たちがしたら10年もかかるようなところを3日で、本当にその気持ちというのは、10年も幾らもかかるものですか、実際2人でされても。ただ、この10年という文面は何か。取っかかりのできた10年なんですね。それはやっぱり皆さん方も思っておって、何をするにしてもそうだと思うんです。2人ではまずできんことなんです。そういう中で、この文面というのは本当に重いものがあるな、行ったかいがあったなと思うわけですね。

そこで、市長にお尋ね。この文面を見たときに、人間として、市長として、首長としてどう思われたか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

いや、行って本当によかったと思いました。その文面を見たときに、もうよし江ちゃんが必死になって書いておんさあわけですね。ワープロじゃなくて、もう本当に、言い方は悪いですけど、筆圧も物すごい筆圧で、やっぱり気持ちのこもっておったなと思ったとですね。そのときに、実は被災地に我々が行ったときに、そのよし江ちゃんの家は被災を受けて2カ月後に我々は入ったとですね。そのときに、ちょうど末藤議員と私が一緒におりましたので、よし江ちゃんとしゃべっておったときに、「2カ月たって初めてあなたたちが来ました」と言いんさったとですね。ね、末藤議員、そがんですね。それで、必死になって我々は、ウズですよ、ヨシとか、アシとか、いわゆる土とか汚泥とかというのを、においとかにまみれながら、私は上田議員とペアを組んでやりましたけれども、とにかくほとんど全部出したと。実際、その後、実はその2週間後、私は陸前高田市に入った後にもう一回仙台市に入りました。ちょうど我々がやった後、2週間後。また変わっておるとですよ。先ほどありましたように、我々は全部土砂の搬出というのはやっぱりできんわけですね。たった8人プラス3人で11人です。雨が降ってきたけんが、途中でもう出んばいかんやったときもありました。しかし、その後見たときに、我々の行動がきっかけとなって、議員さんたちの行動がきっかけとなって、やっぱり言うたとおりの車が入ってしておったとですよ。ですので、我々がやったことが呼び水になったということは、やっぱり人間の力というのは物すごく偉大と思いました。

それで、よし江さんがいみじくもおっしゃったのは、雨天の友は、雨が降っておるときの友は本当の友ですと。私ももし武雄市民の皆さんたちに何かあったときはイの一番に駆けつけますと言って、もう泣けたですね。それが私は本当に心温まる、それは人間しかできんことやと思います。そういったことをぜひ、被災地支援もそうですし、さまざま、今度10月に

またバスを仕立てて、山口昌宏団長のもとに、また市民、皆さんたちと一緒に被災地に、仙台の若林区に行きたいというふうに思っております。ですので、一人でも多くの議員の皆さんたちも含めて、あるいはきょう多くの方々が見られていると思いますので、ぜひ行って、実際、もう大分10月になるとまたサポートの中身が変わっているかもしれません。ですので、その時点に応じたボランティアの支援をぜひそういうふうに仕立てて、私ももし時間があれば一緒に行きたいと思っていますので、ぜひよろしくお願ひしたいと、このように思っております。本当に、もう最後にしますけれども、人間の持つ優しさとか、偉大さとか、ありがたさとかというのを痛感した文面でありました。

以上です。

**○議長（牟田勝浩君）**

19番山口昌宏議員

**○19番（山口昌宏君）〔登壇〕**

あと30分というのがここに出ておりますので、次に行きたいと思っておりますけれども、いずれにしましても、災害というのは、いついかなるところで起こるか分からないのが災害だと思います。そういう中で、我々も含めて、やっぱりいついかなるとき起こってもいいような体制をとっておかなければいけないのかなと思っておりますので、皆さん方のふだんの気持ちを、災害に対しての心づもりをしていただいております。

それでは次に、道路行政についてということで出しておりますので、ちょっとだけ。

実は、これは小柳議員にも古川盛義議員にも何も言うておらんとですけれども、実はこれは震災の前だったと思うんですね、県議選のありよころ——ありよころというよりもその前に、あるという前に、武内でビラを配っていたわけです、県政報告会のビラを。そいぎ、そのとき、まだ寒くて、雪のちらちらしよったとかな、どがんかな、ゲートボールばしよらす人の小柳議員さん方の裏の辺におんさいたとですけれども、その人たちが私の顔を見て、おい、山口さんやろうという話で、「ちょっと来てん」と言われて行ったのがそのそもそのきっかけなんですけれども、「あんたさ、武内町の人口のがん減りよるとは何が原因じゃいわかとおとや」と言われたわけですね。「いや、それはもろもろの原因のあるくさんた」て言いながらも、「ばってんさ、人間、生活ばする上では、やっぱり一番要るのは道路やろうと。道路整備ができておらんやったら、やっぱり生活する上では一番厳しいだろう」という言い方なんです。県道はまちきつとどがんじゃいせろさという話なんです。「実はさ、県道というのは県の管轄やけん県道ばい、市の管轄は市道というとばい」と言うたわけですね。そしたら、何と言われたか。「下から上ぐつとがあんたたちの仕事やろうもん」という話なんです。それで、よう考えたら、武内というところはよそよりかいっぱいあるわけですね。相知山内線が1つですね、それから梅野有田線が1つ、武雄伊万里線がある。もういっちょ何じゃいあろう、県道が3つか4つあるわけですね。その県道の整備ばびしゃつと

せじにやて。そして今になったわけです。今になったというのは、さっきのもとに戻る震災なんです。それで、さっきの松尾議員の質問の中でもあったように、国の5%削減と、最終的に16%削減かな、それで無理やろうと。しかし、武雄市の道路の延長、これには農道まで書いていただいております。里道は別です。武雄市の中に約1,000キロ、ここから岩手県までぐらいあるとやなかかというような感じで1,000キロぐらいあるとですね。そこまではないですね。その中で、一般国道指定区間外と主要地方道、一般県道が114キロ、市道、農道合わせて1,000キロか、そいけん道路が1,114キロぐらいあるわけですね。そういう中で、県道に関して、どなたかの質問の中でもあったように、県のほうにどういうふうな要望活動をされているのか、その辺についてお尋ねをまずしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

石橋まちづくり部長

**○石橋まちづくり部長〔登壇〕**

現在、市内の県道につきましては、工事整備中が11路線ございます。11路線のうちの15カ所を現在整備中でございます。これは補助国道を含めてです。それで、それぞれ整備が行われておりますが、予算が若干少ないと、事業費が少ないという理由もあります。それからもう1つは、やはり箇所数が、要望箇所が多くて、県のほうがなかなか手が回っていないということで、今、佐賀県の道路の考え方は、幹線的な道路、例えば、有明沿岸とか、それから唐津側の道路、佐賀唐津道路ですか、それから国道498号も入っていますが、そういう幹線的な道路を中心に早く供用させたいという考え方のもとでやられておまして、一般県道とか主要地方道についてはなかなか現在のところ手が回っていないという状況であります。しかしながら、山内町におかれましては、4月26日に杉原議員、それから末藤議員、帯同いただきまして、関係4区の区長さんあたりと要望活動は行っていただいております。

以上です。

**○議長（牟田勝浩君）**

19番山口昌宏議員

**○19番（山口昌宏君）〔登壇〕**

この質問を何でしているかといったら、県道は県道でも、この質問をして皆さん方と聞き取りの話をずっとしよったら、旧武雄市はそれなりに歩道もついておろうもんという話なんです。そう言われてずっとしよったら、武雄伊万里線の赤穂山トンネルを越えた向こうのほうはついておらんですよね。そう言われればその辺かな、その辺はついていないなど。ただ、私がなぜこういうふうな質問をしているかといったら、東川登でもあったんですけども、たかだか一たん停止の大きい字を書いてくださいとずっと頼んでおったら、とうとう書いてもらえん。そしたら、そのときに私は何と言ったかと、「もしここで亡くなったら、その後書くとやろう」と私は言うたです。そしたら、本当にそこで亡くなったわけです。亡く

なって2日目やった、「生まれ」と書いたのが。行政の仕事のやり方というのはそんなものなんです。例えば、県道の歩道をつけてくれ。命にかかわることだから、これをしてくれ。主要県道も大事でしょう。しかし、どこがどうじゃなくって、命にかかわる道路であれば、せめて歩道、それくらいぐらいはもう本当に力を入れて陳情をしていただきたい。武内の人のがん言わしたとは、もう本当に、まさに今はもう武内に限らず、西川登、東川登、若木、橋もそうでしょう、限界集落に本当に近い状況なんです。先ほどのみんなのバスじゃないですけれども、何か買いに行く、それだって歩道がなかったら行けないじゃないですか。せめて命にかかわることだから、その辺は考えて、今後の道路行政、一生懸命頑張って、ない金の中でも、せめて歩道ぐらいはしていただけるように、市長を初め、執行部の皆さん方は、災害を考えたら額に汗して頑張って今後の道路行政をしていただきたい、そして市民の安全・安心を守っていただきたいということをお願いして、一般質問を終わります。

○議長（牟田勝浩君）

以上で19番山口昌宏議員の質問を終了いたします。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 15時57分